

市民意見リーダー 調査結果報告書

(2020 年度)



郡山市

< 目 次 >

I 調 査 概 要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 職業別	3
(4) 居住年数別	3
(5) 居住形態別	3
(6) 地域別	4
(7) 現住所の直前の居住地別	5
(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)	5
8. 回答者の属性《地域別集計》	6

II 調 査 結 果

1. 郡山市の住みやすさなどについて	13
(1) 住みやすさへの評価	13
(2) 今後の居留意向	16
2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度	19
(1) まちづくりへの満足度結果一覧	19
(2) これからの取り組み重要度結果一覧	23
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》	26
(4) 分野別属性別満足度結果	28
(5) 分野別属性別重要度結果(複数回答)	44
3. 令和元年東日本台風について	46
(1) 自然災害への不安感	46
(2) 警報レベルを用いた情報発信の認知状況	48
(3) 災害時に有効的と思われる協力先	50
(4) 「自らの命を自らが守る」ために重要なこと	52

4. 新型コロナウイルス感染症について	53
(1) 新型コロナウイルス感染症への不安感	53
(2) 新型コロナウイルスに関する情報入手経路（複数回答）	55
(3) 新型コロナウイルスの感染症対策（複数回答）	60
(4) 新型コロナウイルス感染症についての意見や提案	65
5. 市への意見や要望など	66
【分野Ⅰ】 産業・仕事の未来	66
【分野Ⅱ】 交流・観光の未来	66
【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来	67
【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来	67
【分野Ⅴ】 暮らしやすいまちの未来	68
【分野Ⅵ】 横断的取組	69
【分野Ⅶ】 基盤的取組	70
 (付) 調査票様式	
調査票	71

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 住みやすさについて…質問 2 問
- (2) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 44 項目についての満足度）…質問 44 問
- (3) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 44 項目についての重要度）…質問 1 問
- (4) 令和元年東日本台風について…質問 3 問 自由記載 1 問
- (5) 新型コロナウイルス感染症について…質問 3 問 自由記載 1 問
- (6) 対象者の基本属性について…質問 7 問 補助質問 1 問
- (7) 市への意見や要望など（自由記載）…質問 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の者
- (3) 標本数：1,500 人（男性 750 人、女性 750 人）

<内訳>

	標本数	性別		年代別							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
全体	1,500	750	750	33	197	233	286	259	265	227	
地区別	旧市内	576	284	292	14	78	84	111	107	100	82
	富田	121	61	60	3	17	23	25	19	19	15
	大槻	149	74	75	4	18	23	28	25	26	25
	安積	158	78	80	3	21	26	30	26	26	26
	三穂田	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	逢瀬	19	10	9	0	2	2	3	4	4	4
	片平	28	15	13	0	4	5	5	4	6	4
	喜久田	57	28	29	2	8	10	12	8	9	8
	日和田	45	24	21	1	5	8	9	8	8	6
	富久山	171	84	87	4	28	30	34	27	27	21
	湖南	14	7	7	0	0	2	2	2	4	4
	熱海	24	12	12	0	2	2	4	4	6	6
	田村	79	42	37	2	9	11	14	13	16	14
西田	19	10	9	0	1	3	3	4	4	4	
中田	21	11	10	0	2	2	3	4	6	4	

- (4) 抽出方法：住民基本台帳(令和2年4月28日現在)からの年代、地域を考慮した無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：令和2年5月14日～令和2年5月29日(16日間)
- (7) その他：これまで「市民意識調査」として2009年度から実施。アンケートの回答は市民の皆さまの意見としていただくものであることから、2018年度から「市民意見レーダー」と名称を変更

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値(%)は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
例：回答者総数3人で、「はい」：1人(33.3%)、「いいえ」：1人(33.3%)、「無回答」：1人(33.3%)の場合等、合計しても必ずしも100%とはならない。
- (3) 複数回答の場合、回答者総数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超えることがあります。
- (4) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

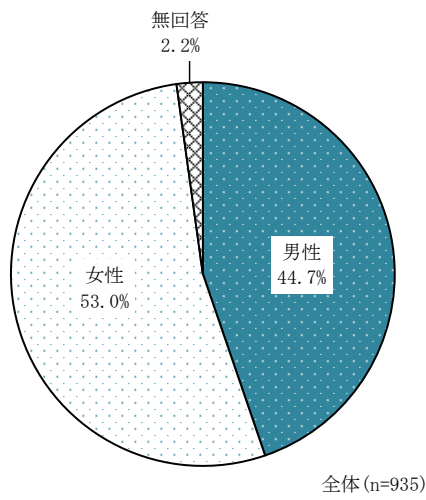
- (1) 棒グラフ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過を沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯グラフ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散布図：2つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

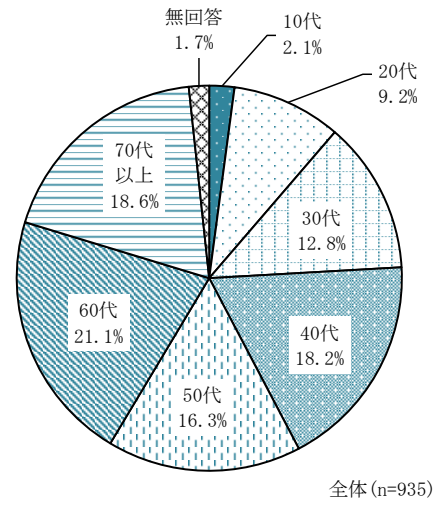
- (1) 有効回収数：935件
- (2) 有効回収率：62.3%(対前年比 +14.5ポイント)

7. 回答者の属性

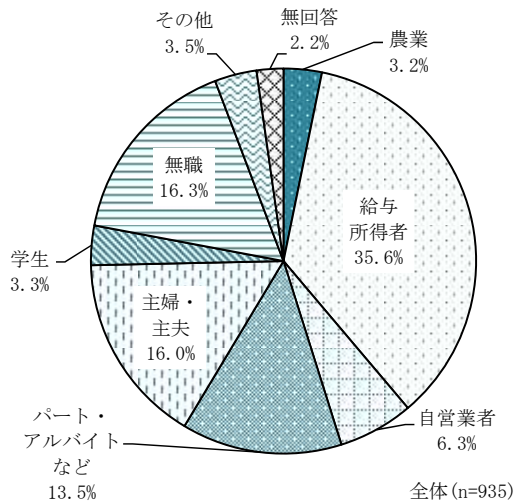
(1) 性別



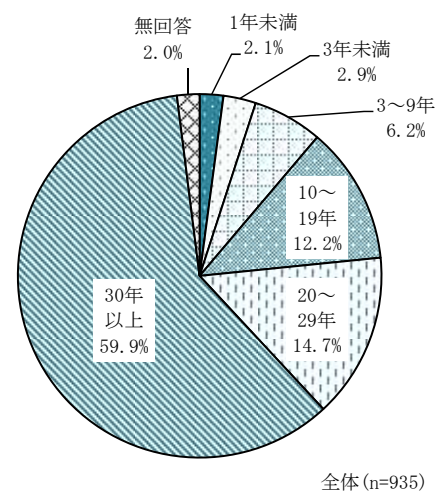
(2) 年代別



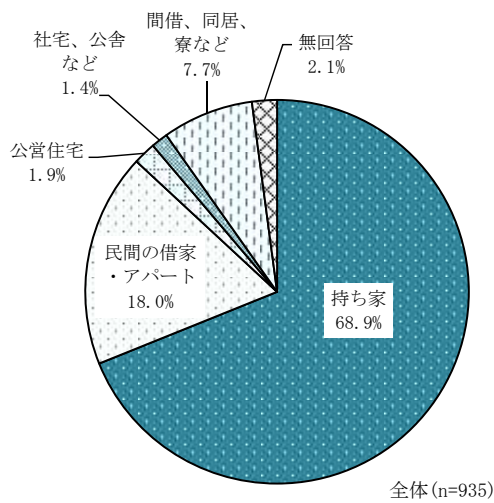
(3) 職業別



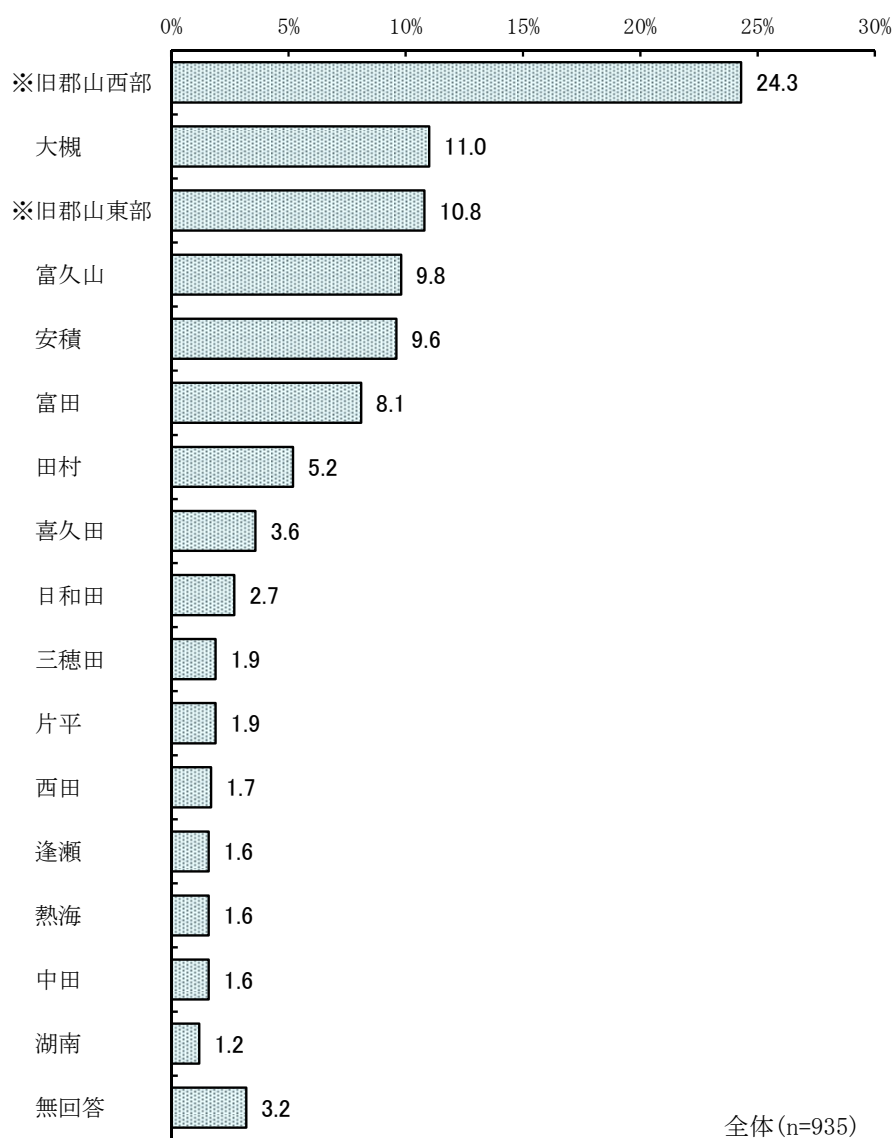
(4) 居住年数別



(5) 居住形態別



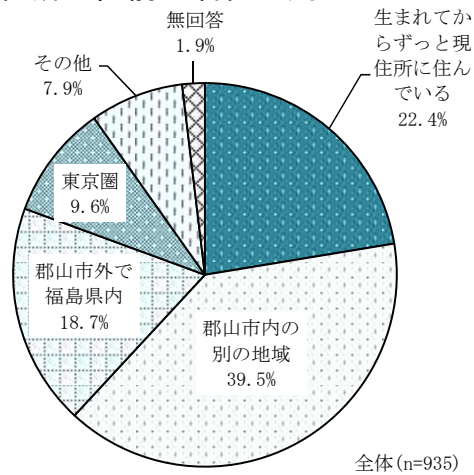
(6) 地域別



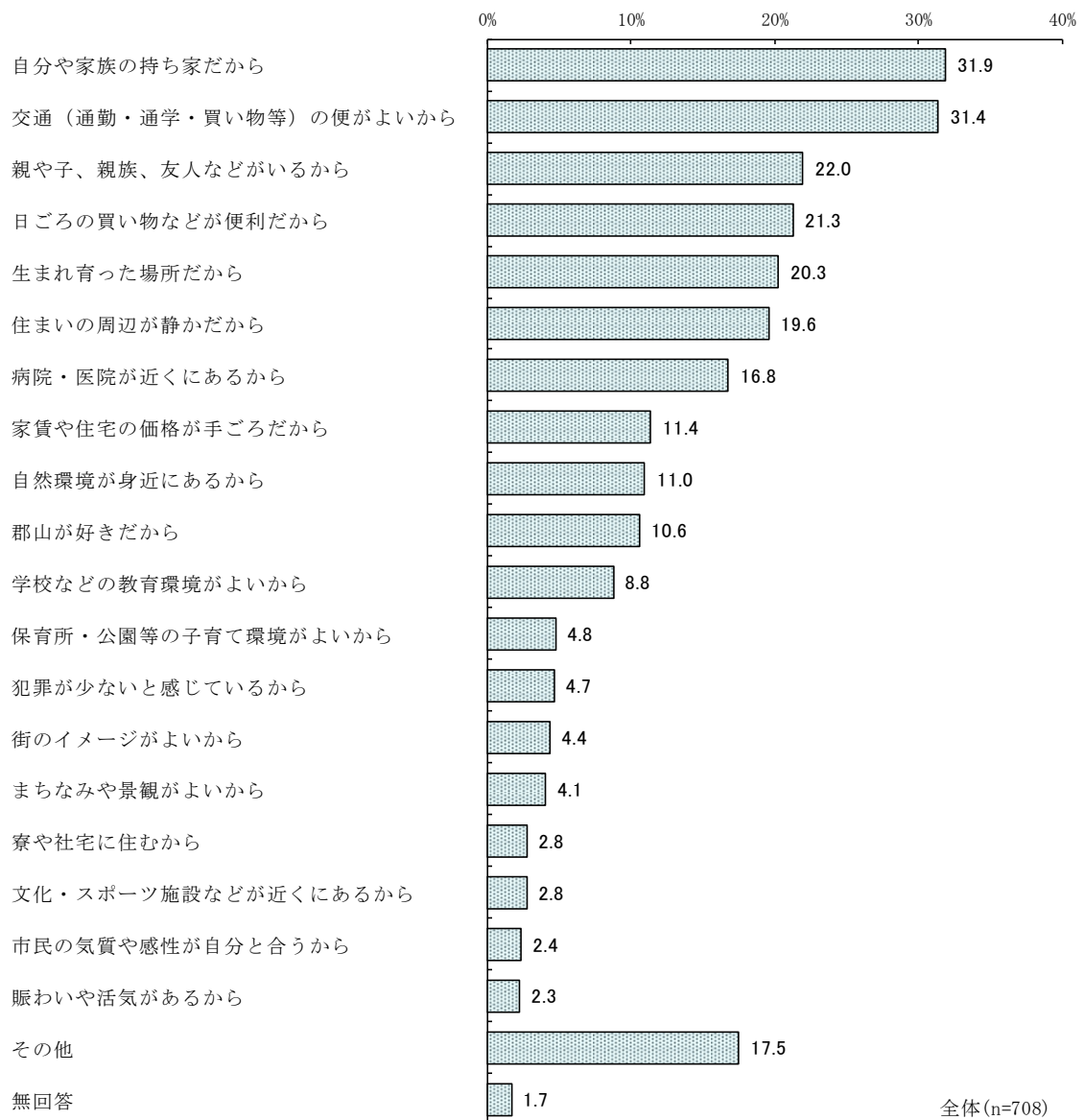
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(7) 現住所の直前の居住地別

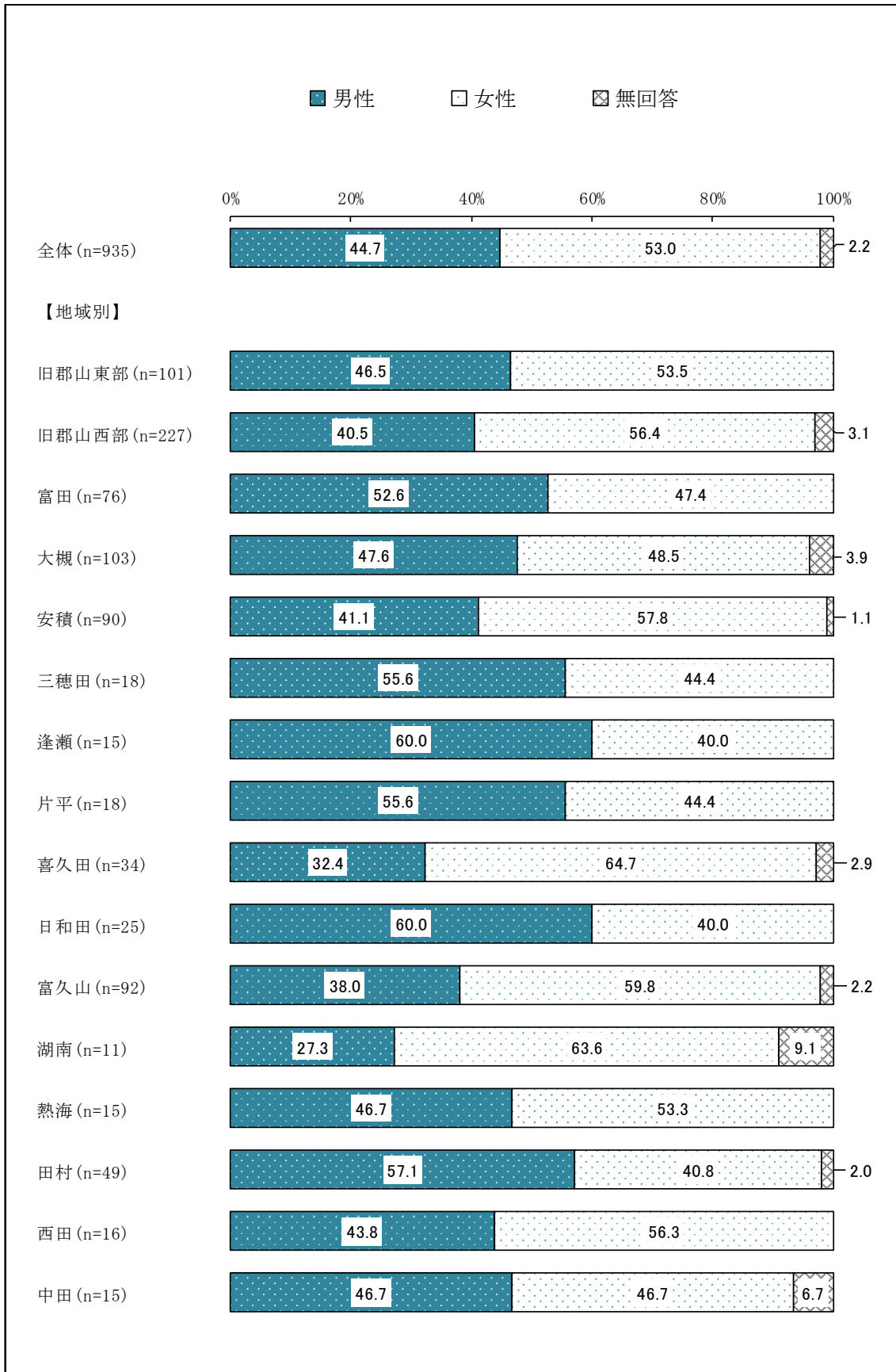


(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)

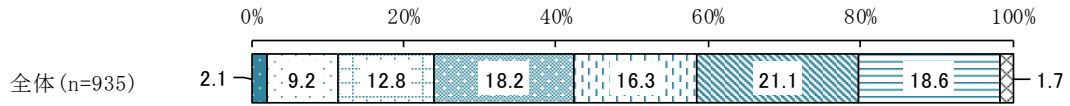
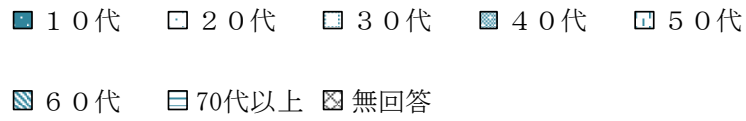


8. 回答者の属性 《地域別集計》

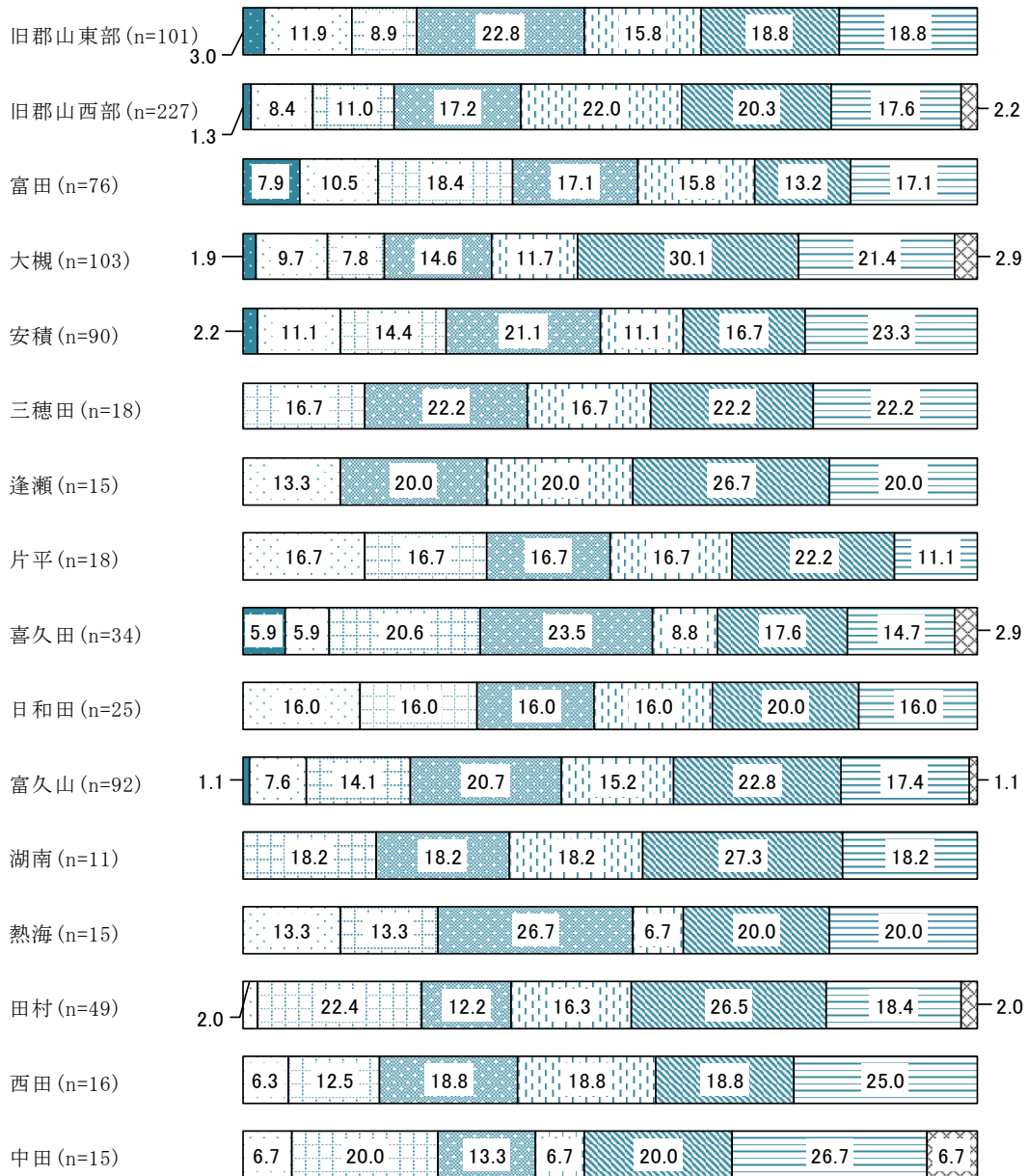
【性別】



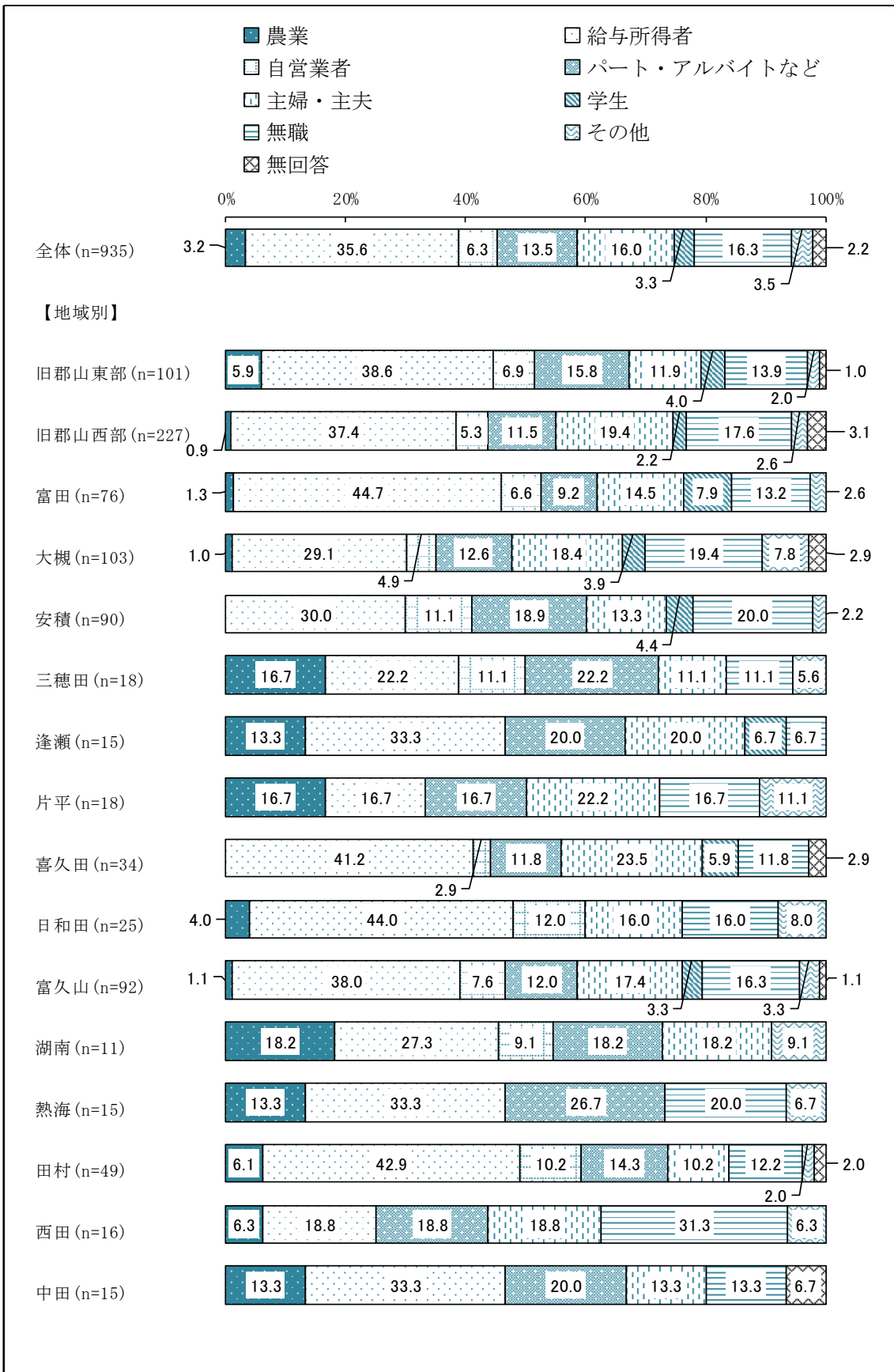
【年代別】



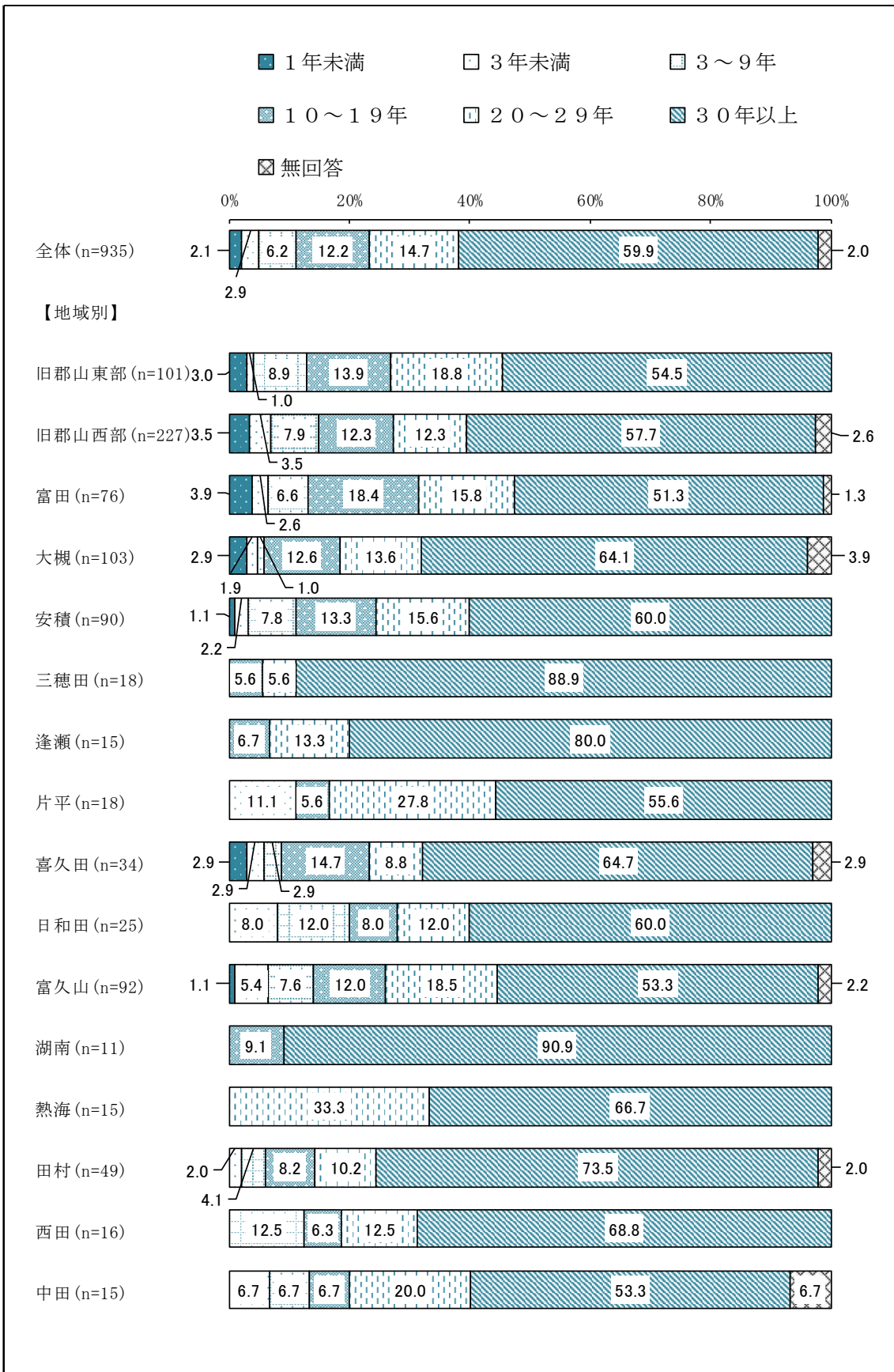
【地域別】



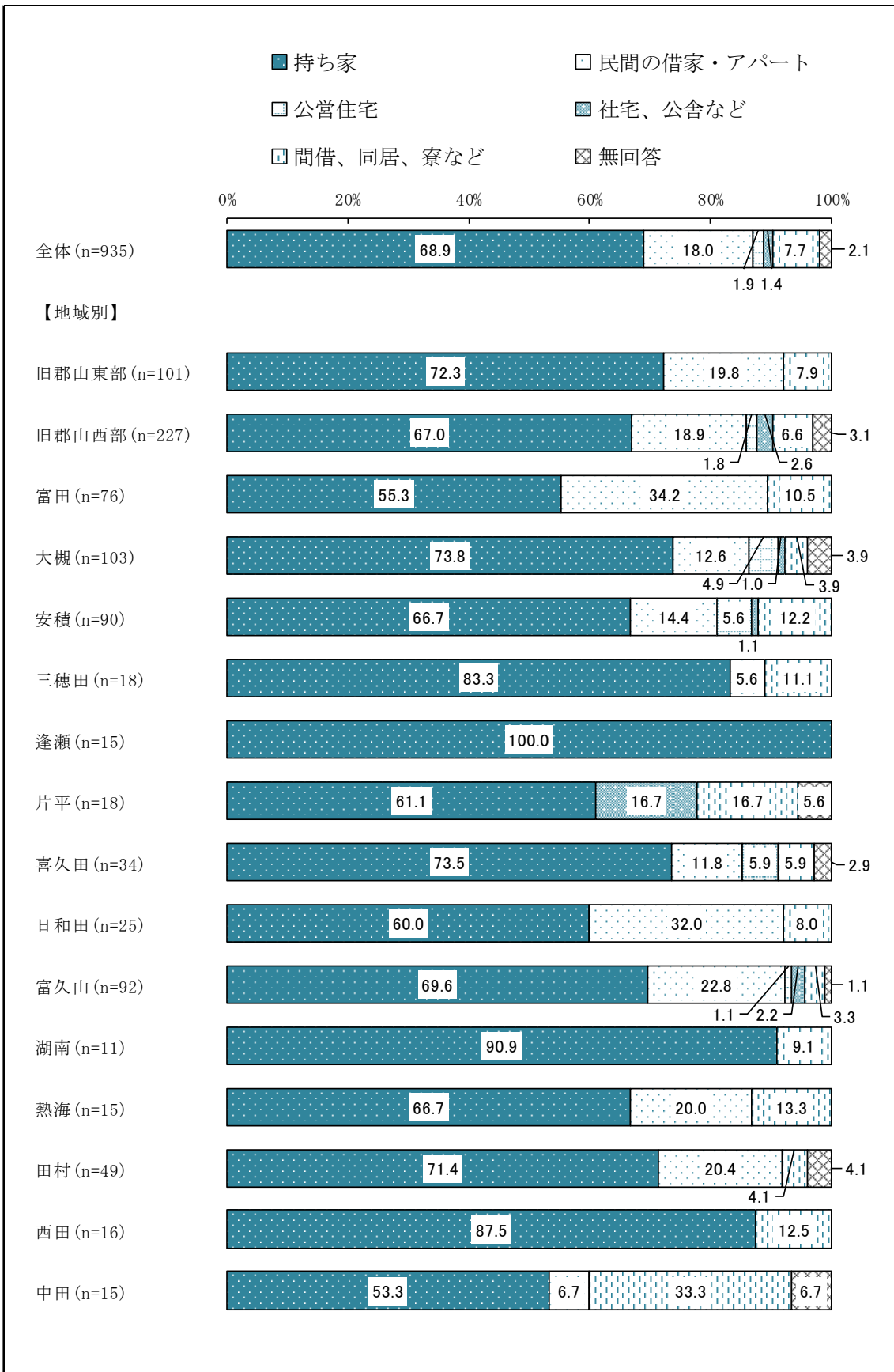
【職業別】



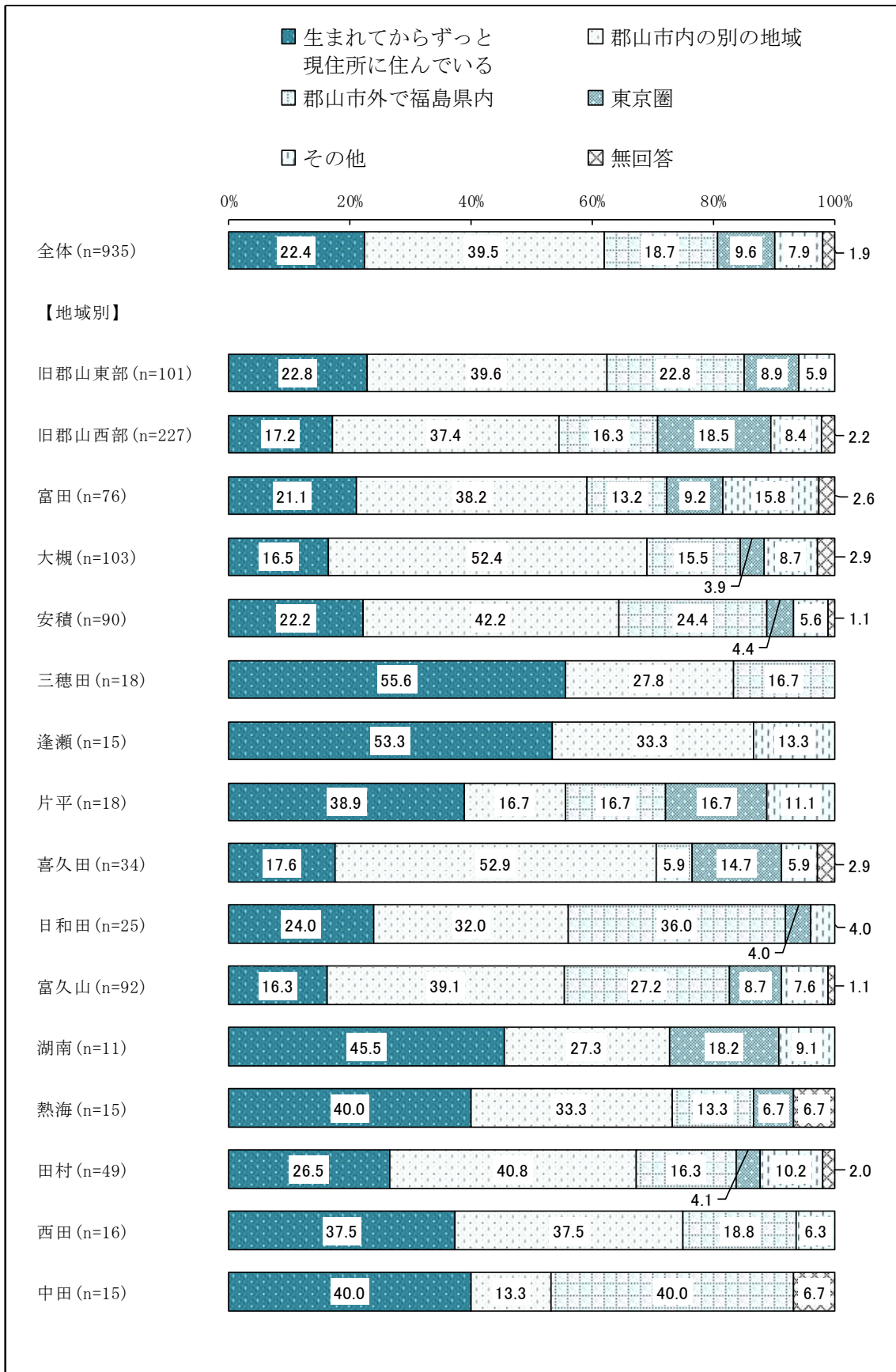
【居住年数別】



【居住形態別】



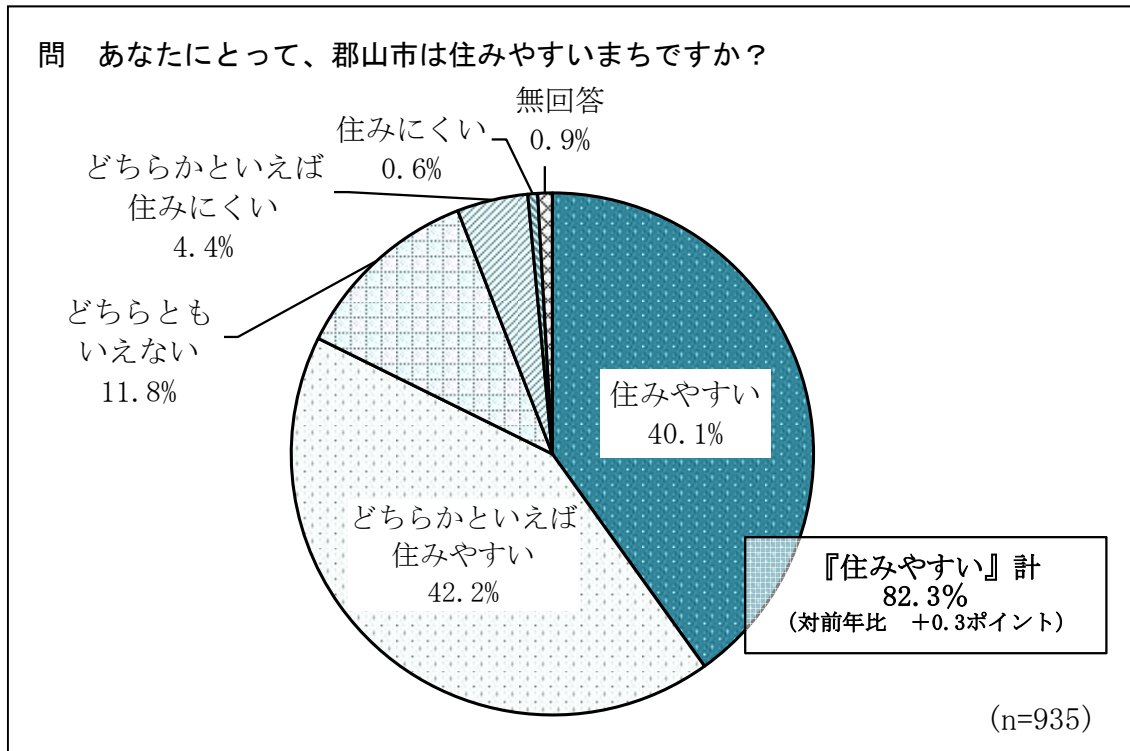
【直前の居住地別】



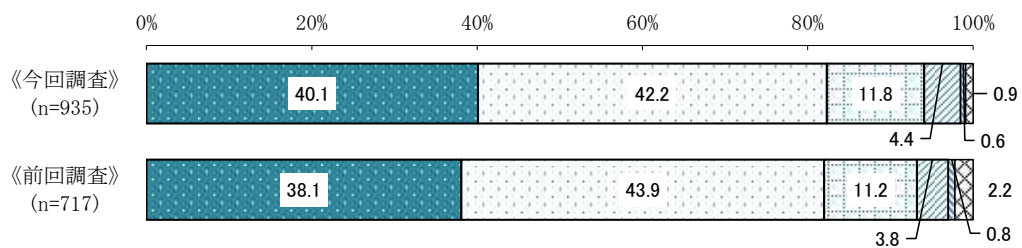
II 調查結果

1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



■ 住みやすい □ どちらかといえば住みやすい □ どちらともいえない □ どちらかといえば住みにくい □ 住みにくい □ 無回答



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

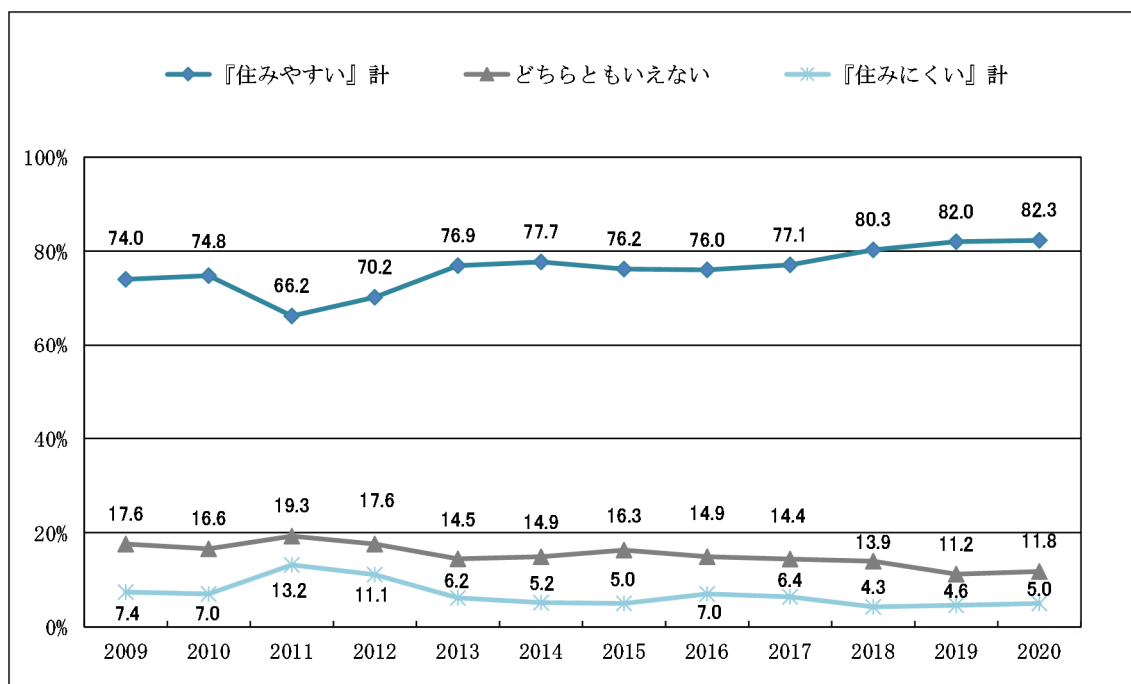
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては、「住みやすい」(40.1%)と「どちらかといえば住みやすい」(42.2%)の両者を合計した『住みやすい』計(82.3%)が8割強を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(4.4%)と「住みにくい」(0.6%)を合計した『住みにくい』計は5%程度(5.0%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは0.3ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回最も高くなっています。

(図1-1参照)

図 1-1 住みやすさへの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

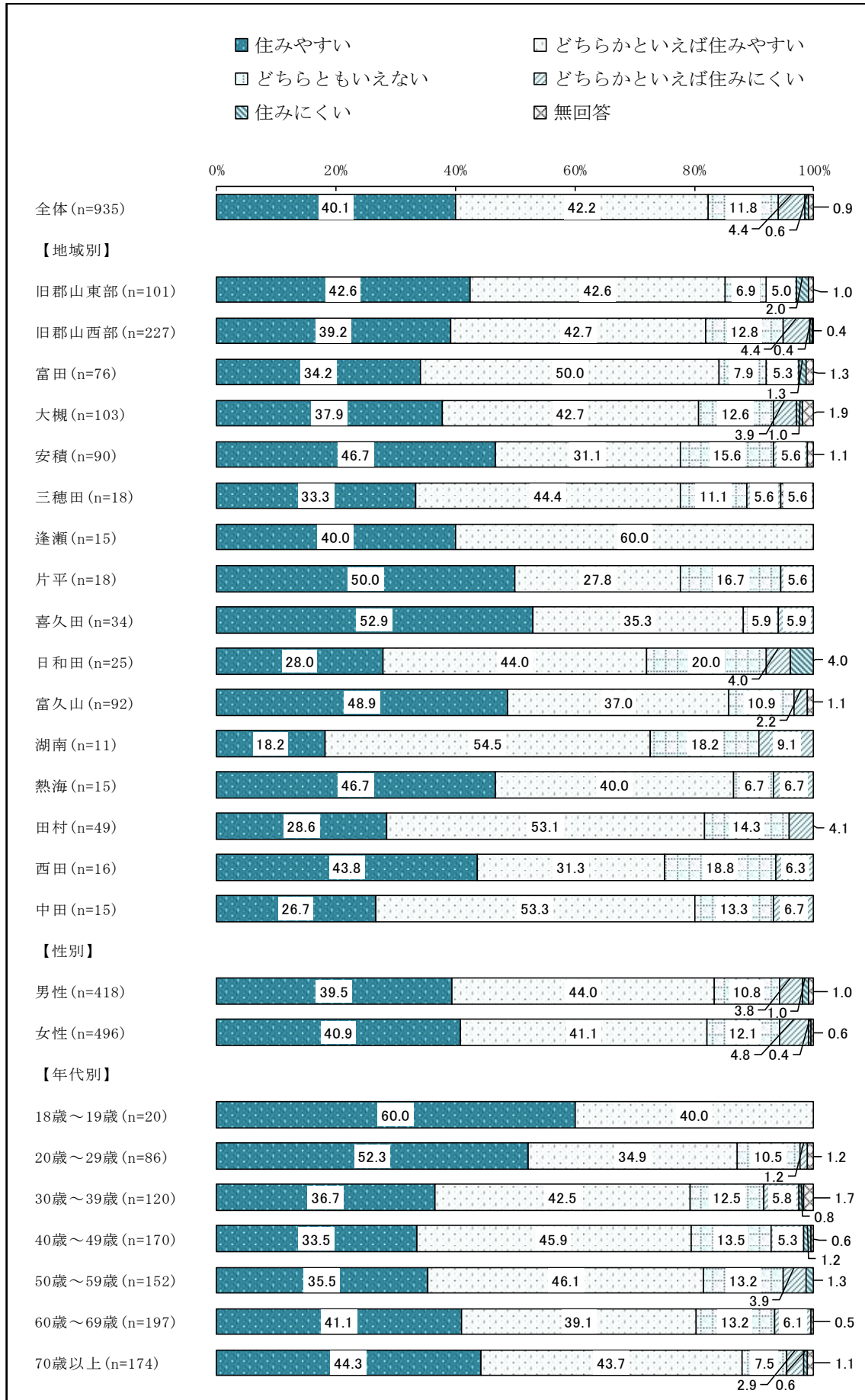
『住みやすい』計の割合は、男性（83.5%）の方が女性（82.0%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

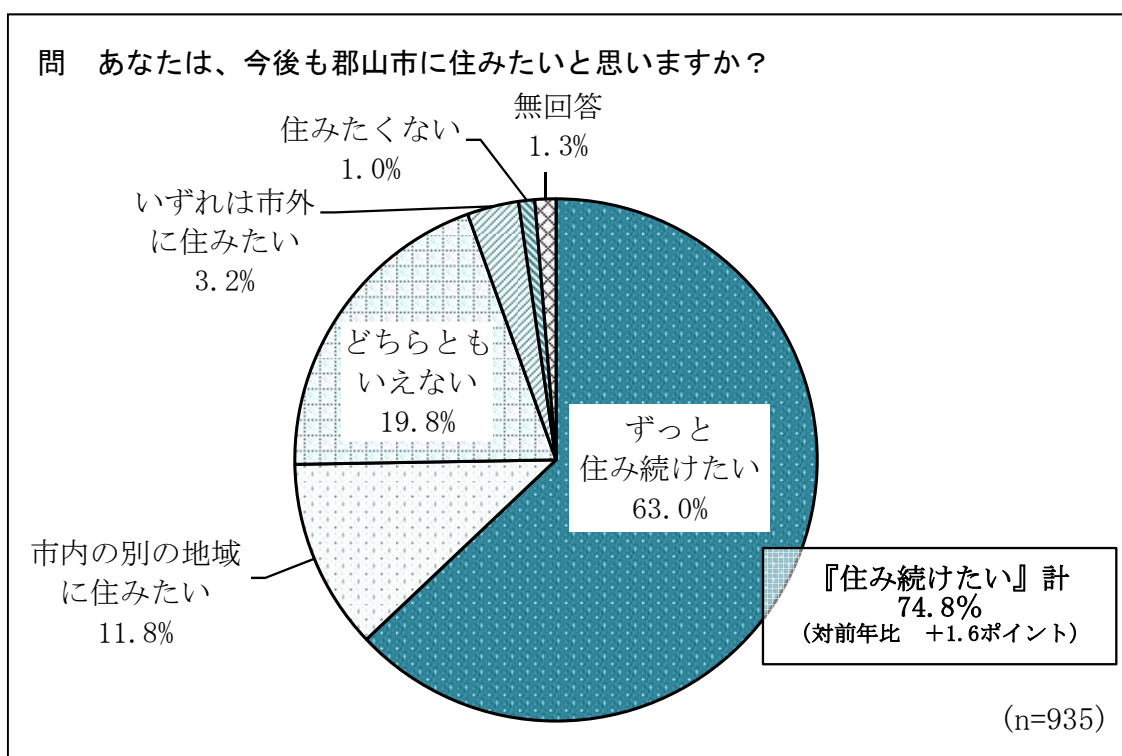
『住みやすい』計の割合は、すべての年代で8割前後となっています。

なお、10代については回答数がかなり少ないため、参考として数値のみ掲載します。（以降同様）

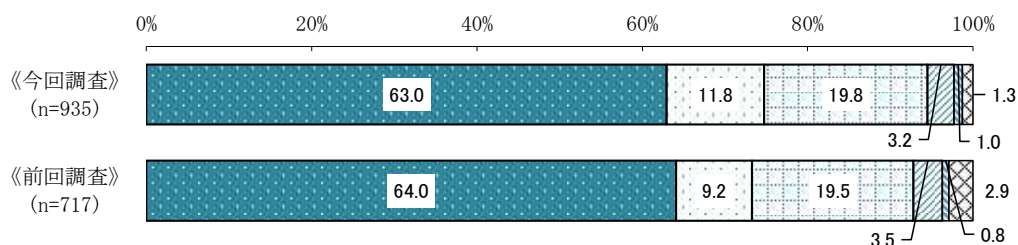
図 1-2 住みやすさへの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向



■ ずっと住みたい □ 市内の別の地域に住みたい □ どちらともいえない □ いずれは市外に住みたい □ 住みたくない □ 無回答



7割の市民は今後も郡山市内に住みたいとしている

【全体結果】

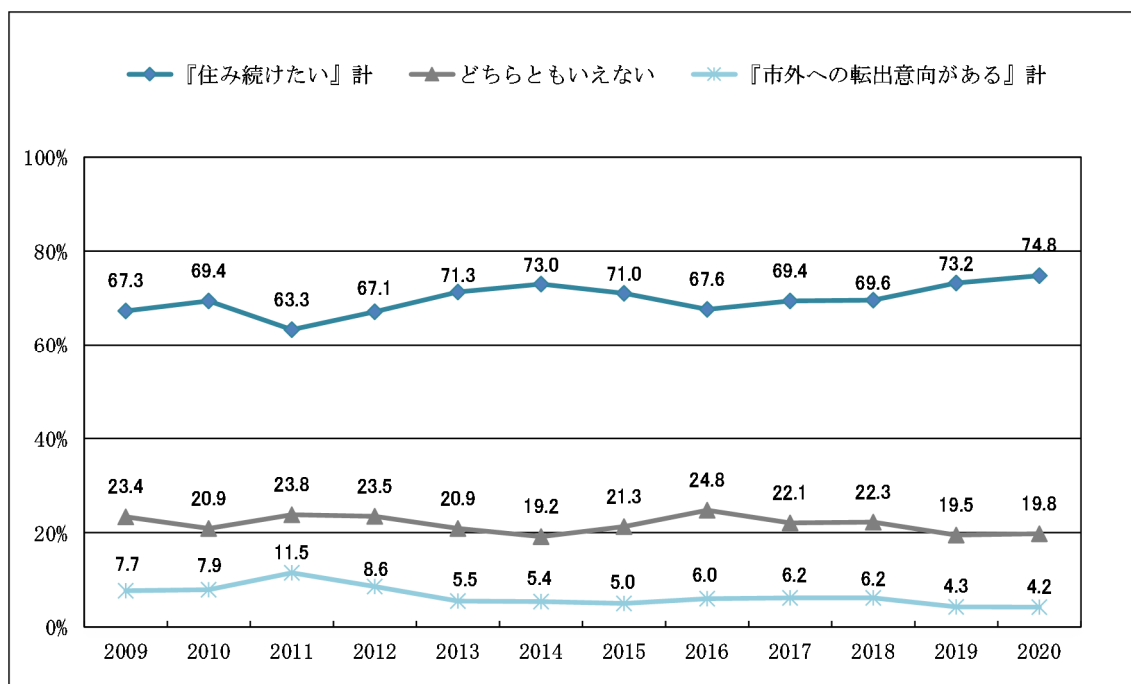
今後も郡山市に住み続けたいかどうかについては「現在の住所にずっと住み続けたい」（63.0%）と「市内の別の地域に住みたい」（11.8%）の両者を合計した『住み続けたい』計（74.8%）が7割強を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」（3.2%）と「住みたくない」（1.0%）を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度（4.2%）となっています。

なお、過去の調査結果との推移と比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住み続けたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向がある』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、5%前後で推移しています。2020年においては、調査開始以来、最も低くなっています。（図1-3参照）

図 1-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

① 性別

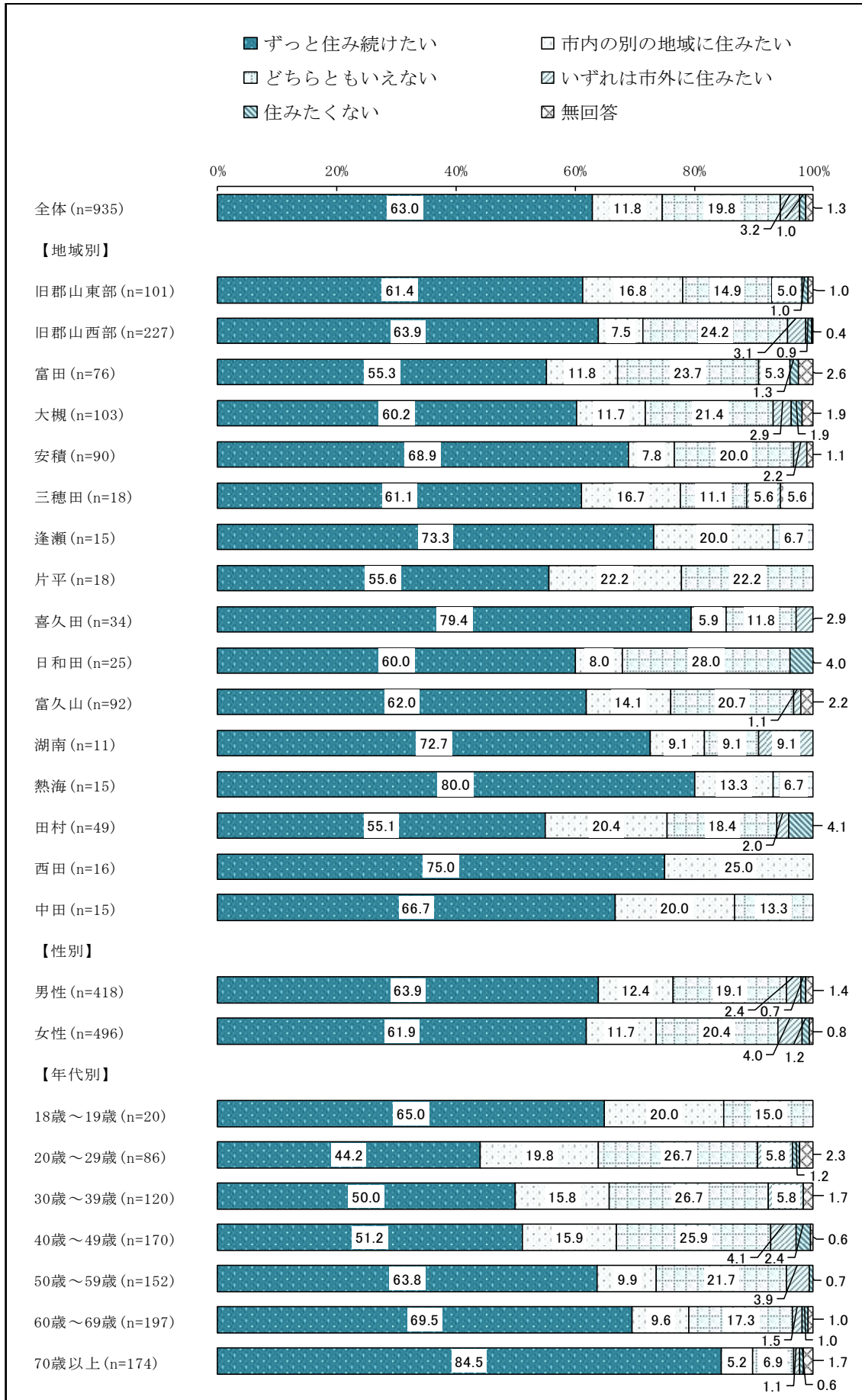
『住み続けたい』計の割合は、男性（76.3%）の方が女性（73.6%）よりもやや高くなっています。

② 年代別

『住み続けたい』計の割合は、70代以上（89.7%）で最も高く、次いで60代（79.1%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、『市外への転出意向がある』計の割合は、20代で7.0%、40代で6.5%、30代で5.8%と若い年代で割合が高くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）



2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表2-1 44項目（施策）の満足度ランキング

平均得点70.4点						
順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	78.6	➡	
2位	(1位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	77.3	➡	
3位	(2位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	76.7	➡	
4位	(14位)	横断的取組	健康管理	75.1	⬆	△
5位	(10位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	74.9	➡	
6位	(4位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	74.8	➡	
7位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	74.5	➡	
8位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	74.4	➡	
9位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	73.9	➡	
10位	(12位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	73.5	➡	
11位	(15位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	73.3	➡	
12位	(16位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	72.9	➡	
13位	(38位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	72.7	⬆	△
13位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	72.7	⬆	△
13位	(9位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	72.7	➡	
16位	(13位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	72.3	➡	
17位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	72.1	➡	
18位	(31位)	横断的取組	風評の払しょく	72.0	⬆	△
19位	(18位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	71.9	➡	
20位	(27位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	70.9	➡	
21位	(20位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	70.8	➡	
22位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	70.7	➡	
23位	(21位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	➡	
24位	(26位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	70.0	➡	
25位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	69.6	⬆	△
25位	(22位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	69.6	➡	
25位	(17位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	69.6	➡	
28位	(11位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	69.3	⬆	▼
29位	(23位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	69.2	➡	
30位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	69.0	➡	
31位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	68.7	➡	
31位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	68.7	⬆	▼
33位	(37位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	68.5	➡	
34位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	68.3	➡	
35位	(30位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	67.0	➡	
36位	(32位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	66.2	➡	
37位	(33位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	65.8	➡	
38位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	65.4	➡	
39位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	64.8	➡	
40位	(41位)	II. 交流・観光の未来	観光	64.7	➡	
40位	(27位)	基盤的取組	行政経営	64.7	⬆	▼
42位	(39位)	基盤的取組	SDGs	64.0	➡	
43位	(43位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	63.6	➡	
44位	(44位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	63.2	➡	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表2-1参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」175人、「どちらかといえばよい」463人、
「どちらかといえば不満」138人、「不満」48人、「わからない」98人ですと、

$$\frac{175 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 463 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 138 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 48 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 98 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{824 \text{ 人}}$$

≒78.6

※平均得点=78.6点となります。

※2019年度より「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から12年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

「自然環境」については、猪苗代湖を含む「磐梯朝日国立公園」をはじめ、阿武隈山地、奥羽山脈など、緑豊かな自然に恵まれており、生物多様性や森林、農地の保全のほか、公園・緑地の整備など、自然と共生できるまちづくりに取り組んでいることが、高い満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「健康管理」「子育て」「住環境」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「健康管理」では、内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、外部被ばくの測定、健康相談等を実施し、原発事故後の放射線に対する健康不安の解消に努め、市民の長期的な健康管理を図っています。

「子育て」では、認可保育所の整備を積極的に進め、保育所等の待機児童の解消に努めるとともに、ニコニコこども館を中心として東西南北に設置している4箇所地域子育て支援センターや元気な遊びのひろば（ペップキッズこおりやま）、市内4か所の子どもの遊び場などにおいて、育児相談や子育てに関する情報提供、親同士・子ども同士の交流の場の提供を行うなど、安心して産み育てられる環境整備を進めています。

「住環境」では、はじめに『公園』について、日常の維持管理とともに、利用者のニーズに合わせた施設の改修や整備を進めています。次に『生活道路』では、地元からの要望を的確に把握し、高齢者や障がい者等の円滑な移動に配慮するとともに、生活環境の利便性や安全性の向上のため効率的に改良・舗装工事を進めています。次に『上下水道』では、水道水の安全性を確保するため、適切な水質管理を行うとともに、給水管等老朽化した施設を計画的かつ効率的に更新しています。また、浸水被害の軽減を図るため、「市ゲリラ豪雨対策9年プラン」に基づき、麓山調整池などの雨水貯留施設を整備しています。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「横断的取組」の73.3点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の72.8点、「学び育む子どもたちの未来」の71.4点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	73.3
2位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	72.8
3位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	71.4
4位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	70.6
5位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	69.4
6位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.2
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	66.0

過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
2012	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
2011	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表2-4 44項目（施策）の重要度ランキング

平均割合9.7%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	31.4	⇒	
2位	(11位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	29.7	⇒	
3位	(4位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	26.3	⇒	
4位	(2位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	25.6	⇒	
5位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	24.1	⇒	
6位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	20.2	⇒	
7位	(7位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	19.3	⇒	
8位	(6位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	16.4	⇒	
9位	(10位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	15.6	⇒	
10位	(5位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	12.9	⇒	
11位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	12.5	⇒	
12位	(8位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	11.7	⇒	
13位	(14位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	11.4	⇒	
14位	(23位)	横断的取組	健康管理	10.1	⇒	
15位	(13位)	横断的取組	除去土壌等の搬出	8.6	⇒	
16位	(16位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	8.4	⇒	
16位	(32位)	基盤的取組	行政経営	8.4	↑	△
18位	(19位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.1	⇒	
19位	(21位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	7.6	⇒	
20位	(17位)	横断的取組	風評の払しょく	7.5	⇒	
21位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	7.3	⇒	
22位	(21位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	7.2	⇒	
22位	(28位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.2	⇒	
24位	(18位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	7.0	⇒	
25位	(23位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	6.6	⇒	
25位	(27位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.6	⇒	
25位	(20位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	6.6	⇒	
28位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	6.4	⇒	
29位	(25位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	6.1	⇒	
30位	(37位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	5.8	⇒	
31位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.3	⇒	
32位	(32位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	5.0	⇒	
32位	(30位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	4.5	⇒	
34位	(40位)	基盤的取組	SDGs	4.4	⇒	
35位	(26位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	4.0	⇒	
36位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	3.6	⇒	
37位	(35位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.4	⇒	
38位	(29位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	3.3	⇒	
39位	(42位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	2.6	⇒	
40位	(38位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.7	⇒	
41位	(39位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	1.5	⇒	
41位	(43位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	1.5	⇒	
43位	(44位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	1.4	⇒	
44位	(41位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	1.3	⇒	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※2：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「雇用・就労」294人ですと、

$294 \text{ 人} \div 935 \text{ 人} \times 100\% \doteq 31.4$

※平均割合（回答率）=31.4%となります。

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「防災」「学校教育」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「防災」「学校教育」が上位となっています。

「雇用・就労」については、2019年から国が継続的に推進している「働き方改革」による社会構造への影響や近年の大雨等の自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域産業への影響から、昨年度に引き続き関心度及び重要度の高さが持続しているものと考えられます。

「防災」については今年度、順位を大きく上げ、とりわけ重要度が高まっています。また、「10年間の重要度上位3項目」において、「学校教育」は2013年度から2017年度まで毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「産業創出・企業誘致」「計画的な都市づくり」です。

「産業創出・企業誘致」については、新型コロナウイルスの流行等の影響によって、情報通信・医療関連等の分野を中心に社会環境の変化に対応するための新産業創出や地元での雇用機会拡大等につながる企業誘致への市民の期待が高まったためと考えられます。

「計画的な都市づくり」では、近年多発する水害被害等への懸念から、安全安心なまちづくりに向けた取り組みや、こおりやま広域圏の玄関口として魅力的なまちへの期待が高まりつつあるものと考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」は重要度が最も高く、14.7%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

表 2-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	14.7
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	13.9
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	10.1
4位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	8.7
5位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	7.8
6位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	7.1
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	5.0

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

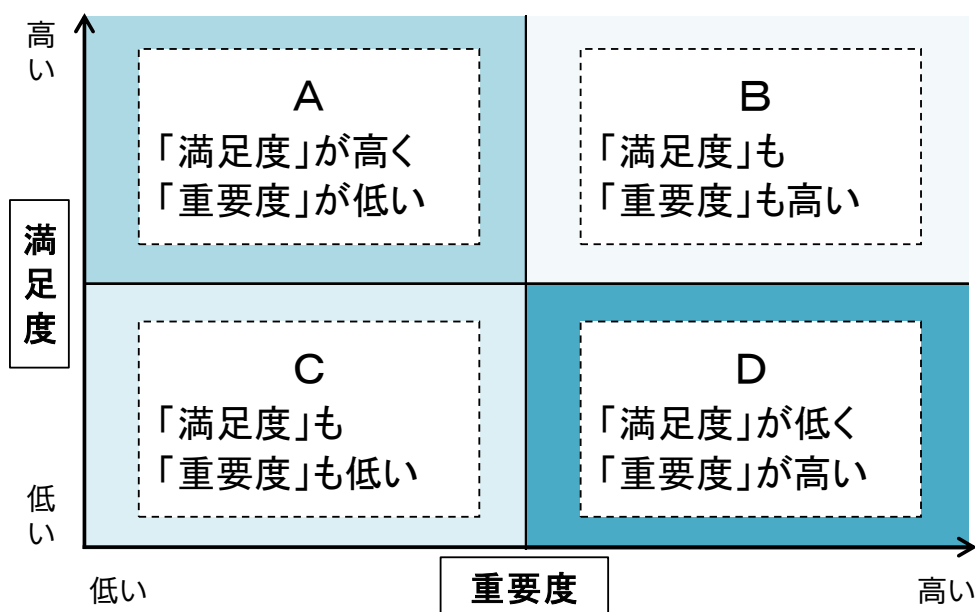
表 2-6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
2012	医療体制	生活環境	保健予防体制
2011	生活環境	医療体制	ごみ対策

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における44項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出20頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出24頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

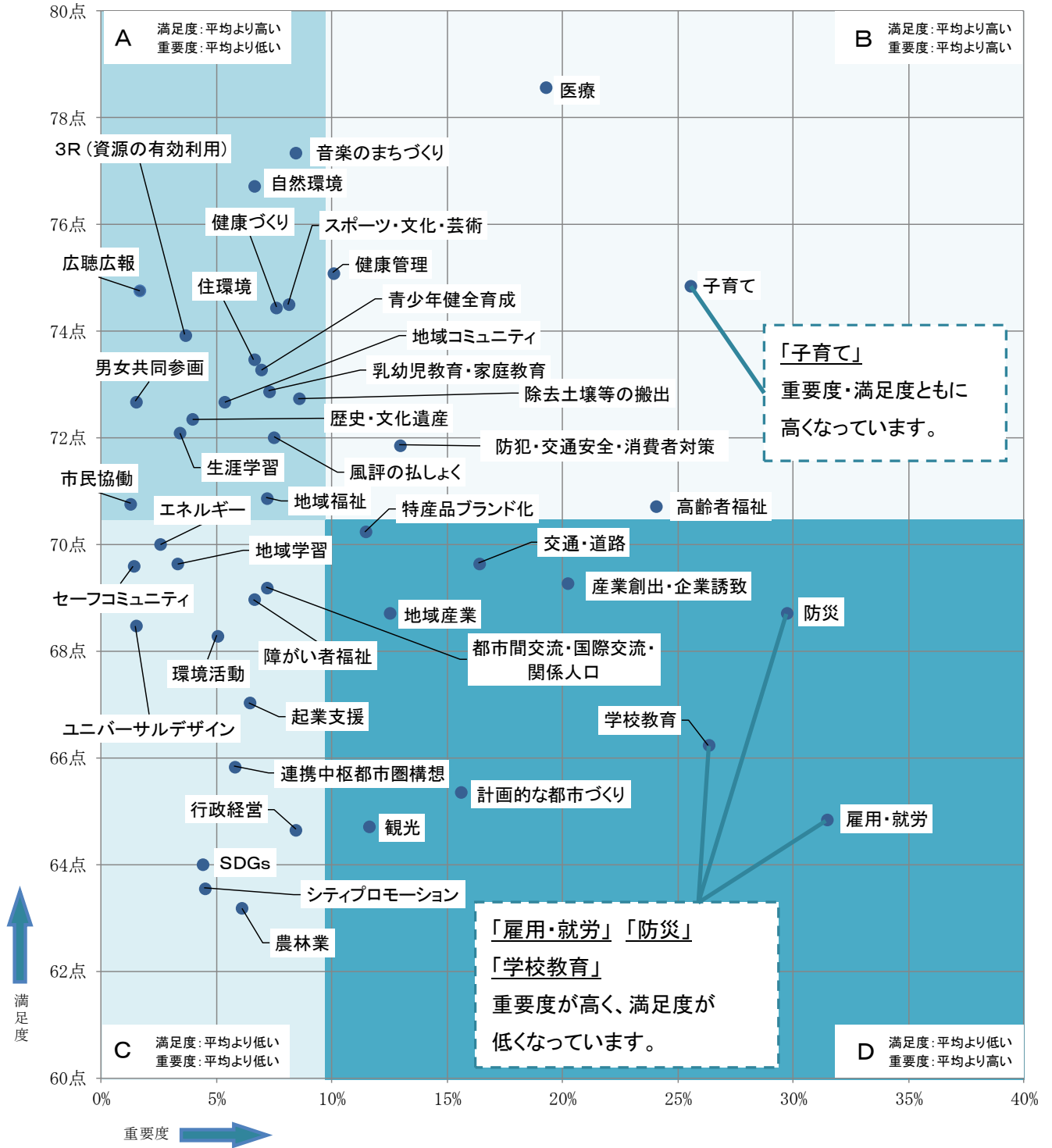
重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図2-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

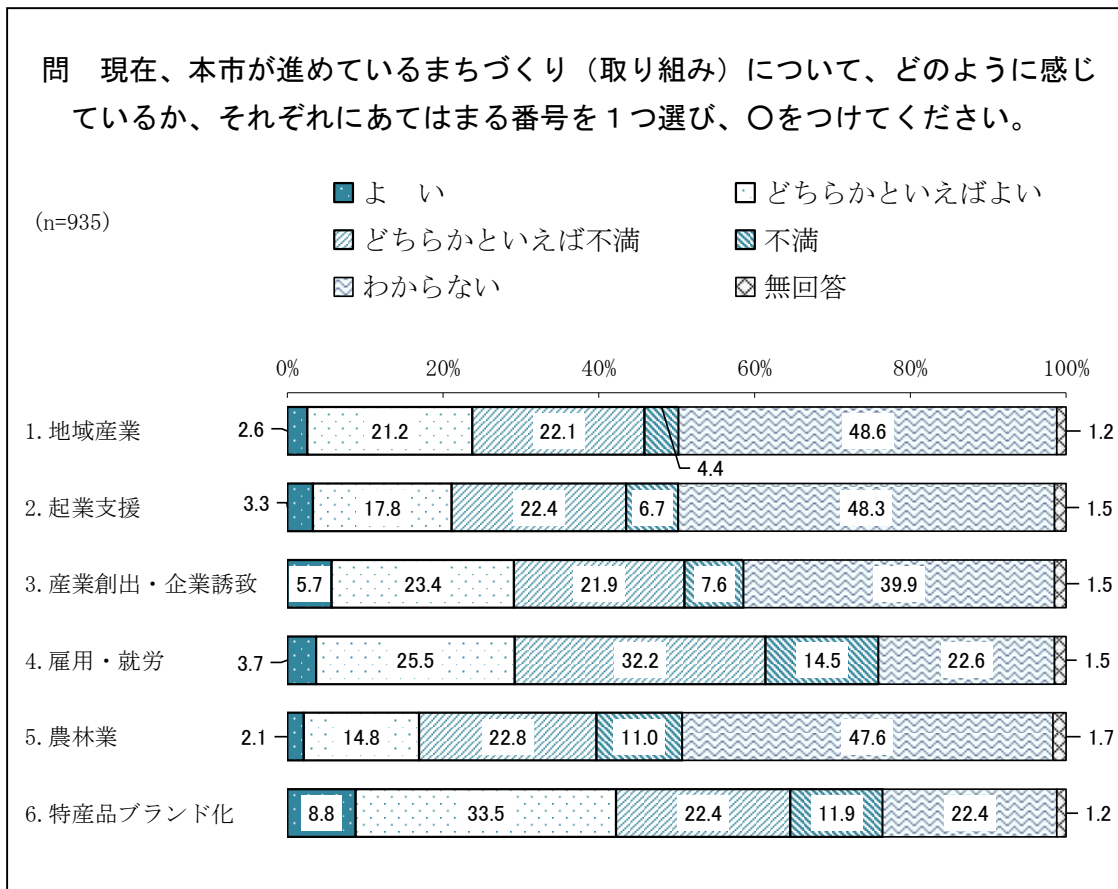


—— 「雇用・就労」「防災」「学校教育」に関して
優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「防災」「学校教育」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（42.3%）でした。以下、『4. 雇用・就労』（29.2%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（46.7%）でした。以下、『6. 特産品ブランド化』（34.3%）、『5. 農林業』（33.8%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』、『4. 雇用・就労』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『1. 地域産業』（48.6%）と『2. 起業支援』（48.3%）で約半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

市特産品の「鯉」や郡山産米「あさか舞」、果樹農業の6次産業化による郡山産ワインの誕生など、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、市民への浸透や全国的な知名度の獲得を目指した、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-2 参照）

平均得点をみると、『6. 特産品ブランド化』が70.2点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（63.2点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました。（表2-7参照）

図2-2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

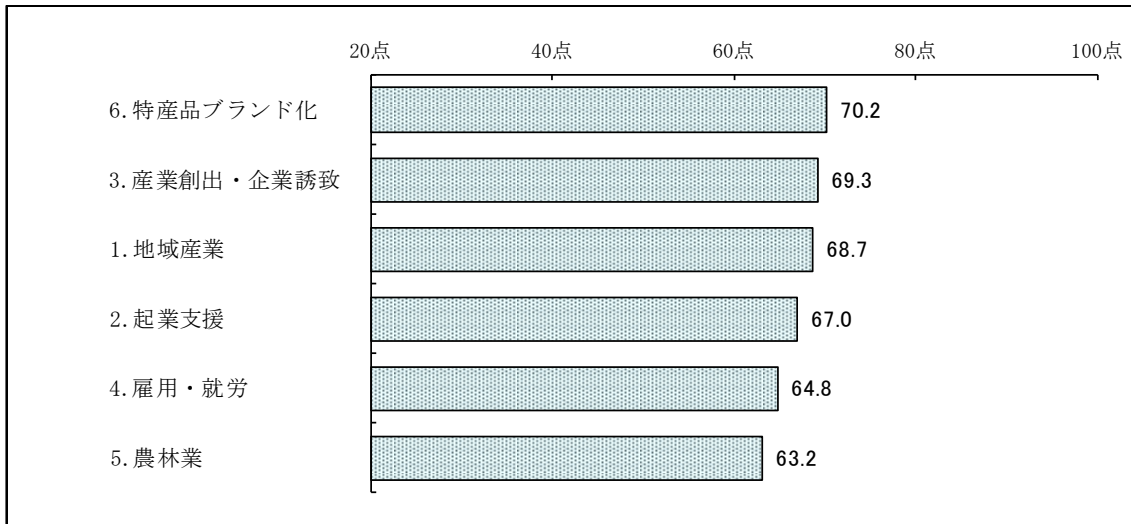
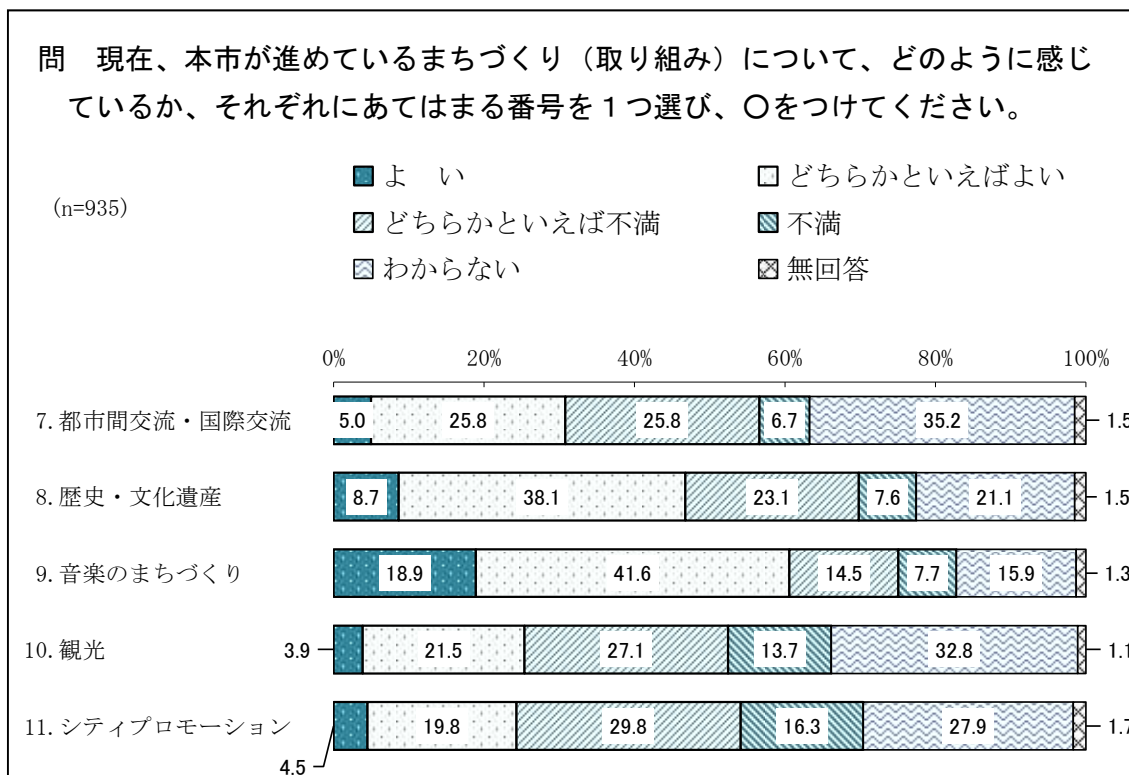


表2-7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	産業創出・企業誘致 (68.9点)	特産品ブランド化 (71.6点)
2位	特産品ブランド化 (68.4点)	産業創出・企業誘致 (69.8点)
3位	地域産業 (68.4点)	地域産業 (69.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品ブランド化 (81.4点)	特産品ブランド化 (77.0点)	特産品ブランド化 (72.6点)	特産品ブランド化 (69.8点)	特産品ブランド化 (70.1点)	地域産業 (68.9点)	産業創出・企業誘致 (74.3点)
2位	地域産業 (80.0点)	産業創出・企業誘致 (73.9点)	産業創出・企業誘致 (68.2点)	産業創出・企業誘致 (66.1点)	産業創出・企業誘致 (68.2点)	産業創出・企業誘致 (68.5点)	地域産業 (72.8点)
3位	農林業 (77.5点)	農林業 (73.2点)	地域産業 (66.7点) 起業支援 (66.7点)	地域産業 (66.0点)	地域産業 (67.5点)	起業支援 (66.9点)	起業支援 (71.1点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）
への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは
『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（60.5%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（46.8%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.1%）となっています。

性別、年代別においては、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっています。

「音楽都市宣言」から12年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催を通じた鑑賞機会の提供や、東京藝術大学との連携(2016～)による人材育成事業など多様な取り組みにより市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が77.3点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（63.6点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-8参照）

図 2-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

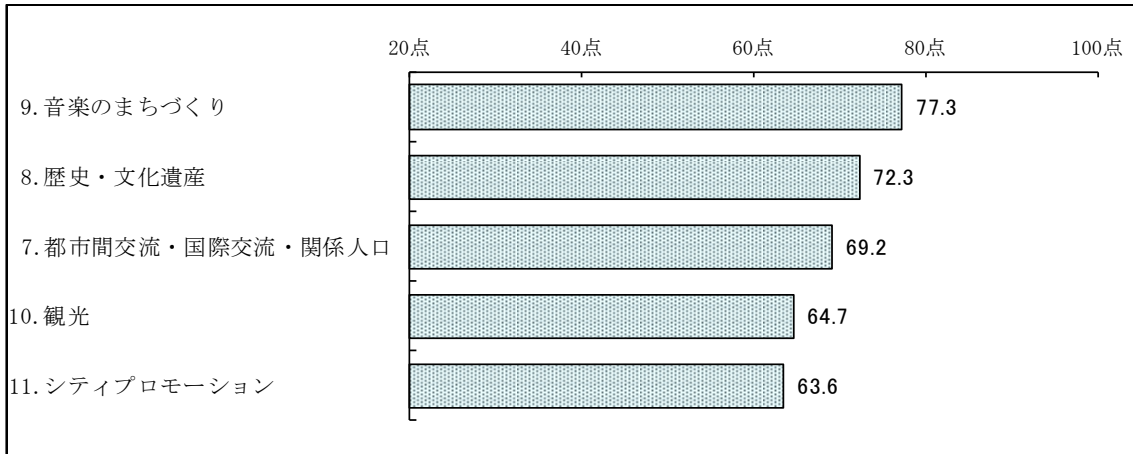
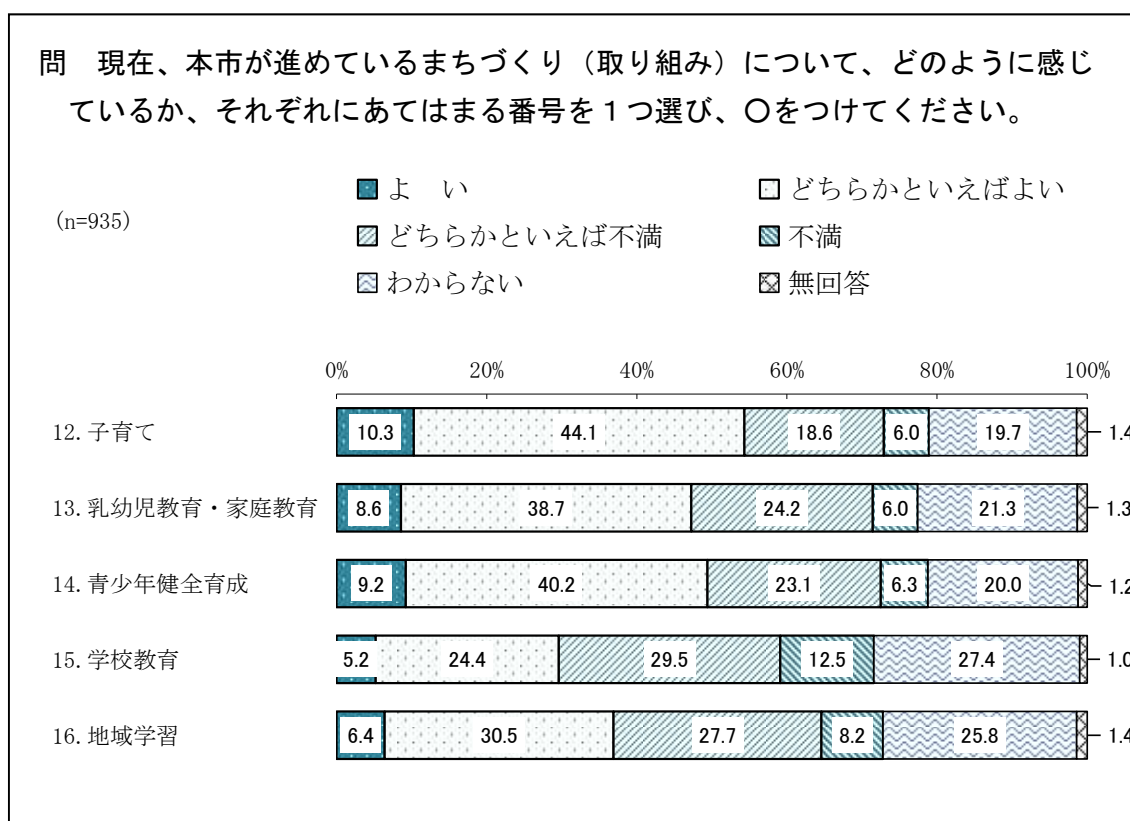


表 2-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (76.3点)	音楽のまちづくり (78.0点)
2位	歴史・文化遺産 (71.8点)	歴史・文化遺産 (72.9点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.7点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	音楽のまちづくり (83.8点)	音楽のまちづくり (81.8点)	音楽のまちづくり (74.9点)	音楽のまちづくり (75.6点)	音楽のまちづくり (78.0点)	音楽のまちづくり (74.0点)	音楽のまちづくり (81.2点)
2位	歴史・文化遺産 (82.7点)	歴史・文化遺産 (79.3点)	歴史・文化遺産 (72.8点)	歴史・文化遺産 (71.4点)	歴史・文化遺産 (73.1点)	歴史・文化遺産 (70.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (70.8点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (80.0点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (74.0点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (66.3点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.2点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.5点)	歴史・文化遺産 (70.3点)

③ 学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（54.4%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（49.4%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『15. 学校教育』（42.0%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が 74.9 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（66.2 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-9 参照）

図 2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

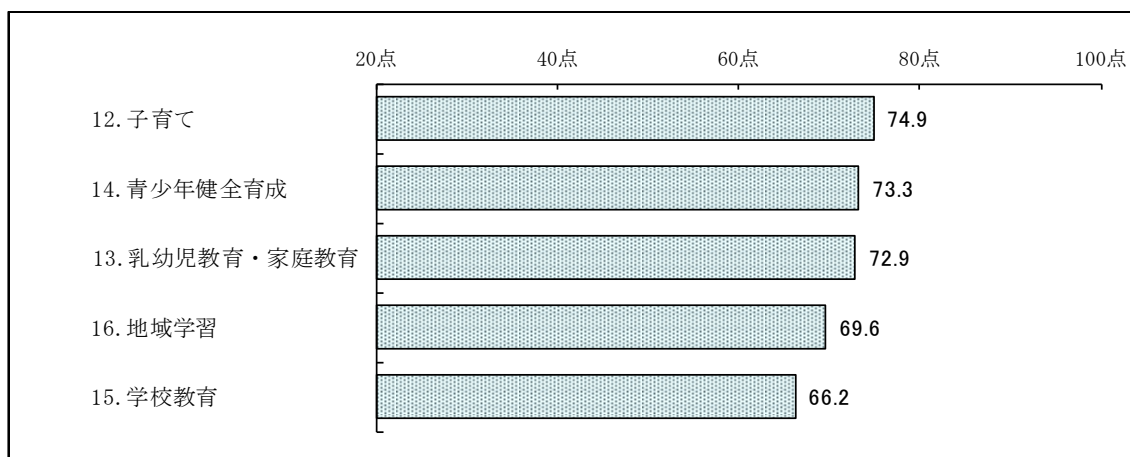


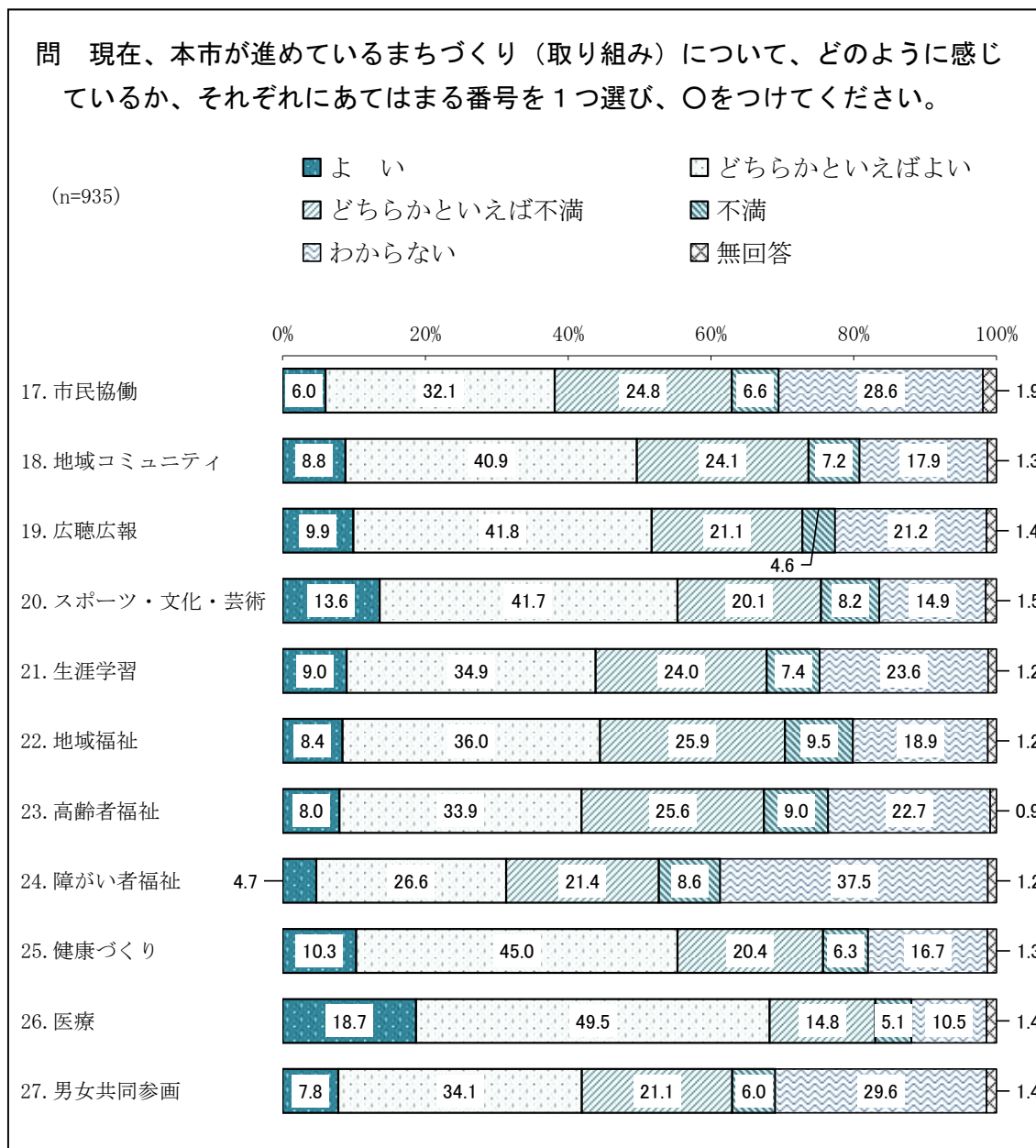
表 2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	子育て (74.1点)	子育て (75.3点)
2位	青少年健全育成 (72.9点)	青少年健全育成 (73.4点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)	乳幼児教育・家庭教育 (73.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	乳幼児教育・家庭教育 (81.8点)	青少年健全育成 (77.6点)	青少年健全育成 (74.9点)	子育て (73.7点)	子育て (74.6点)	子育て (73.1点)	子育て (78.4点)
2位	子育て (78.6点)	子育て (75.5点)	子育て (73.0点)	青少年健全育成 (71.3点)	青少年健全育成 (73.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (70.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (76.6点)
3位	青少年健全育成 (78.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (75.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.9点)	乳幼児教育・家庭教育 (71.0点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)	青少年健全育成 (69.7点)	青少年健全育成 (75.2点)

④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（68.2%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（55.3%）と『25. 健康づくり』（55.3%）が同率で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『22. 地域福祉』（35.4%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 78.6 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（69.0 点）でした。

中でも『26. 医療』に関しては、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査」、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

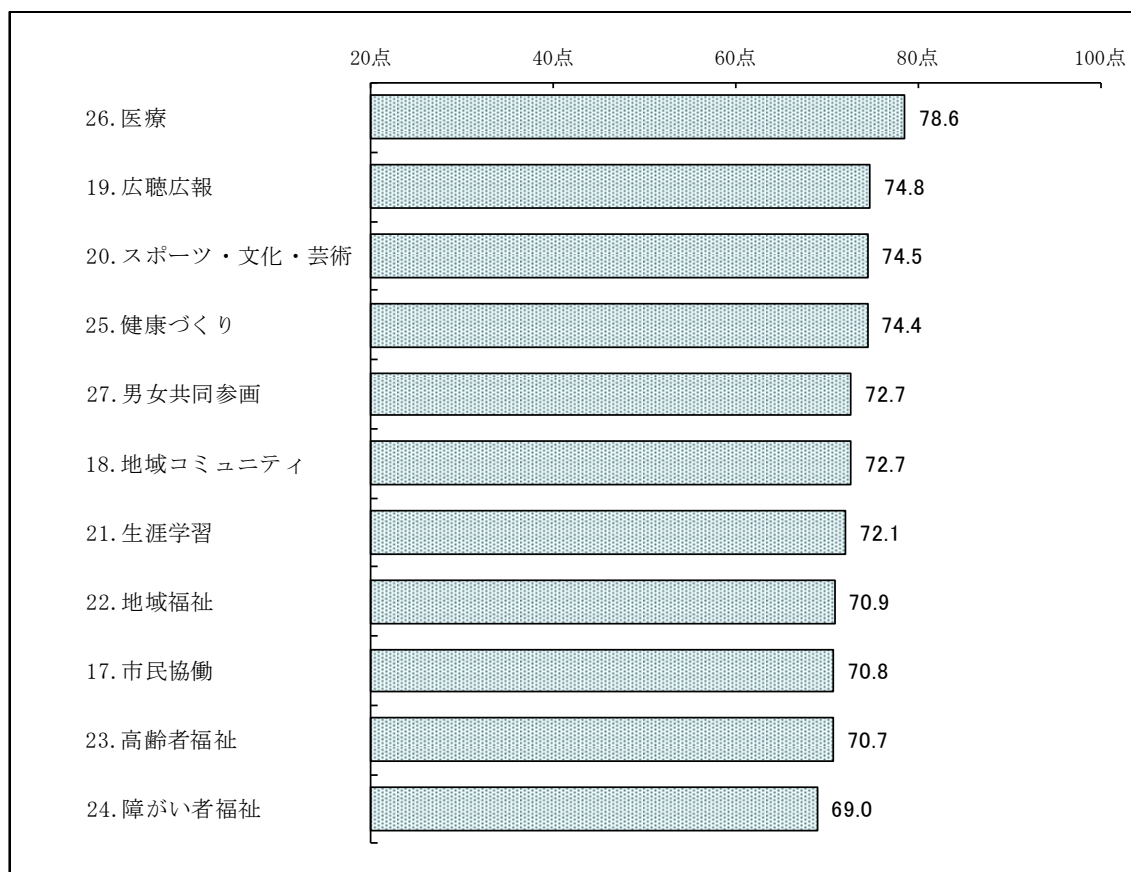


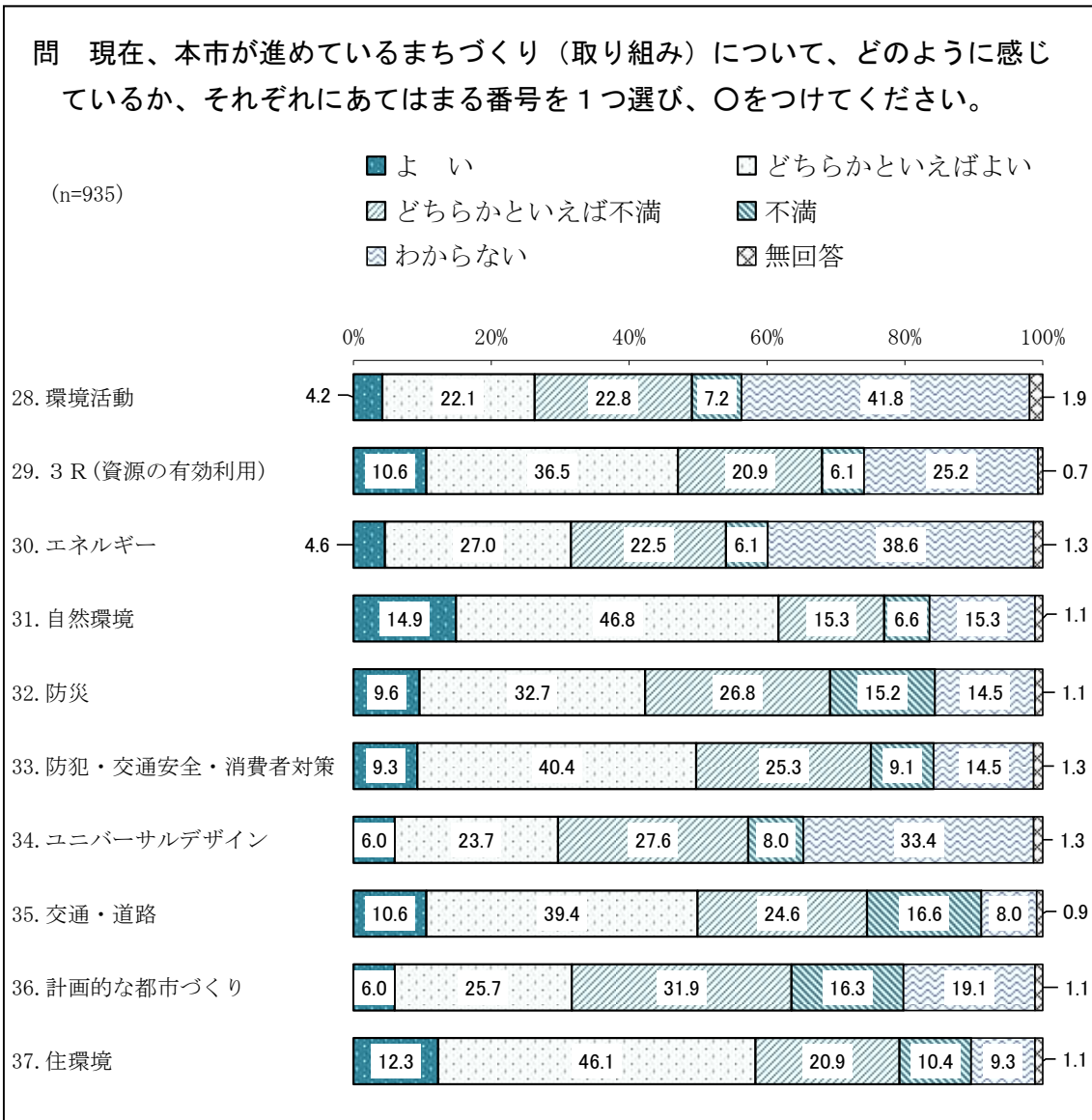
表 2 - 1 0 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (78.9点)	医療 (78.2点)
2位	健康づくり (73.9点)	広聴広報 (75.5点)
3位	広聴広報 (73.8点)	スポーツ・ 文化・芸術 (75.3点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	医療 (84.7点)	医療 (82.5点)	医療 (79.6点)	医療 (78.3点)	医療 (78.0点)	医療 (75.0点)	医療 (80.3点)
2位	広聴広報 (84.0点)	広聴広報 (79.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (76.7点)	広聴広報 (73.8点)	健康づくり (74.8点)	健康づくり (73.0点)	広聴広報 (78.8点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (82.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (78.2点)	広聴広報 (74.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (73.4点)	広聴広報 (73.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (71.4点)	健康づくり (77.8点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（61.7%）、『37. 住環境』（58.4%）、『35. 交通・道路』（50.0%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『36. 計画的な都市づくり』（48.2%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました。（図2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が76.7点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（65.4点）でした。

『32. 防災』に関しては、前年度調査に比べて満足度の順位が下がり、重要度の順位が上がっています。令和元年東日本台風など、近年発生している自然災害の影響により、防災に関する意識が高まっていると考えられます。

『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均より高いものの、前年度と比べ順位は下がっていることから、セーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-11 参照）

図2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

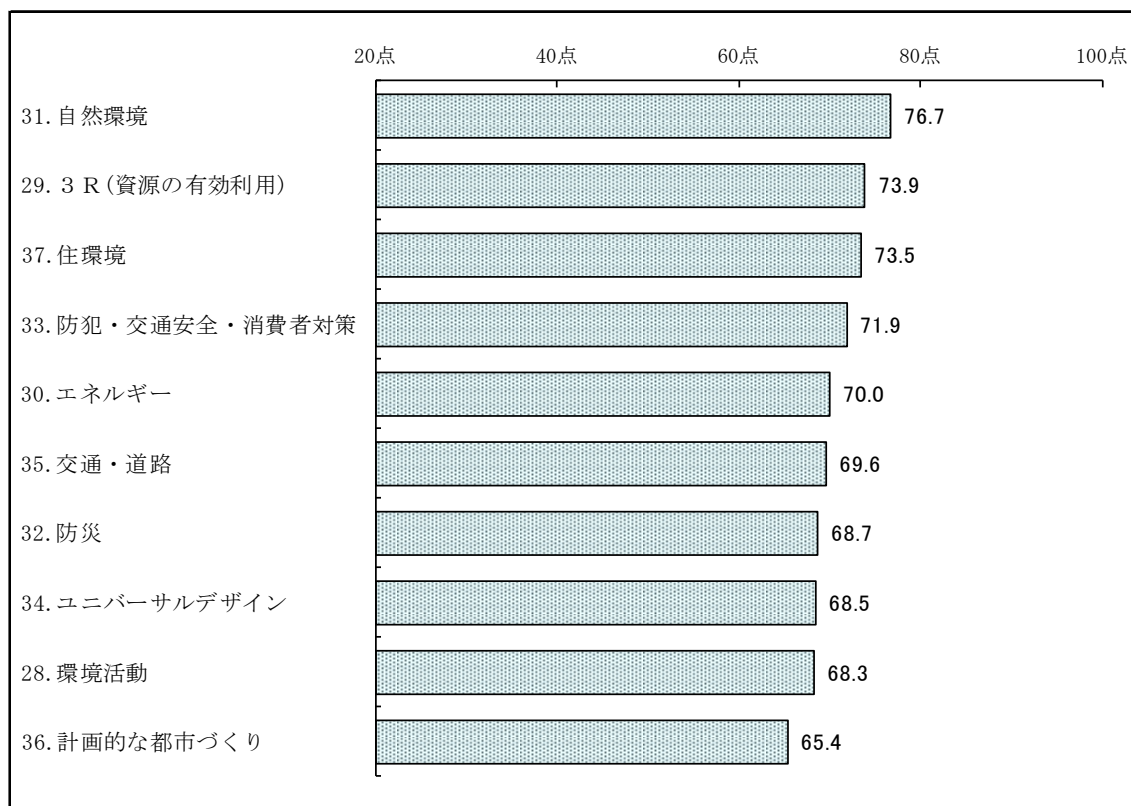
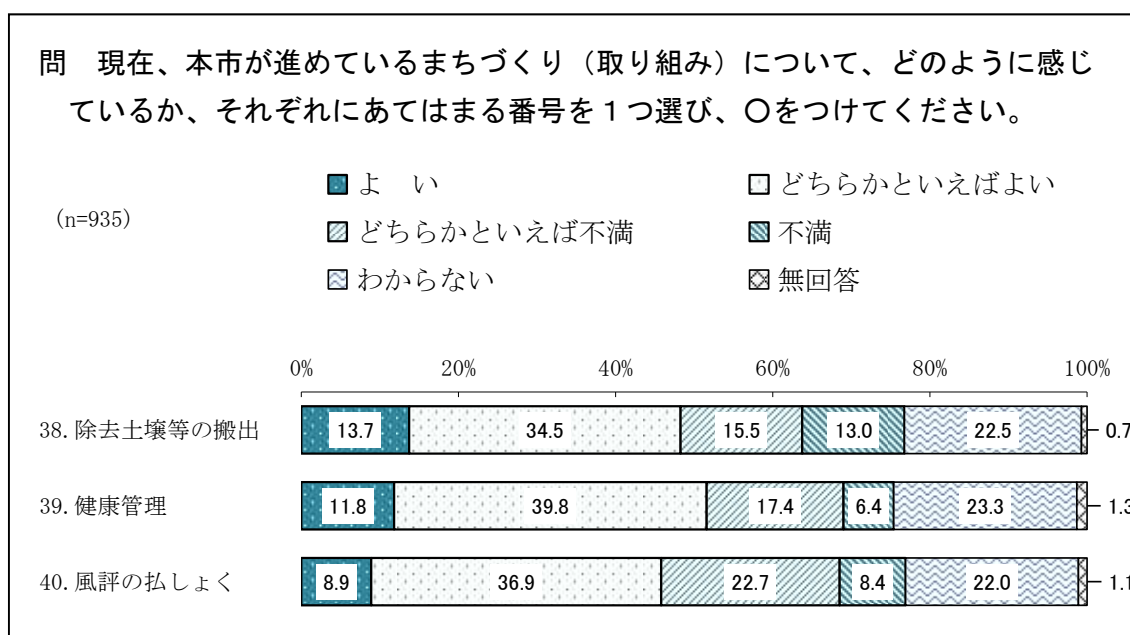


表2-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	自然環境 (75.3点)	自然環境 (77.9点)
2位	住環境 (72.9点)	3R(資源の有効利用) (74.8点)
3位	3R(資源の有効利用) (72.6点)	住環境 (73.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	交通・道路 (85.3点)	自然環境 (81.1点)	自然環境 (78.8点)	自然環境 (77.9点)	自然環境 (75.8点)	自然環境 (73.2点)	3R(資源の有効利用) (76.3点)
2位	自然環境 (85.0点)	住環境 (79.4点)	住環境 (74.3点)	住環境 (74.2点)	3R(資源の有効利用) (73.8点)	3R(資源の有効利用) (72.6点)	自然環境 (75.9点)
3位	住環境 (82.5点)	3R(資源の有効利用) (77.3点)	3R(資源の有効利用) (72.9点)	3R(資源の有効利用) (72.0点)	住環境 (72.8点)	防犯・交通安全・消費者対策 (70.8点)	住環境 (74.7点)

⑥ 横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『健康管理』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『39. 健康管理』（51.6％）です。東日本大震災から約9年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等につながってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（31.1％）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が 75.1 点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『40. 風評の払しょく』（72.0 点）でした。郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-12 参照）

図 2-7 横断的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

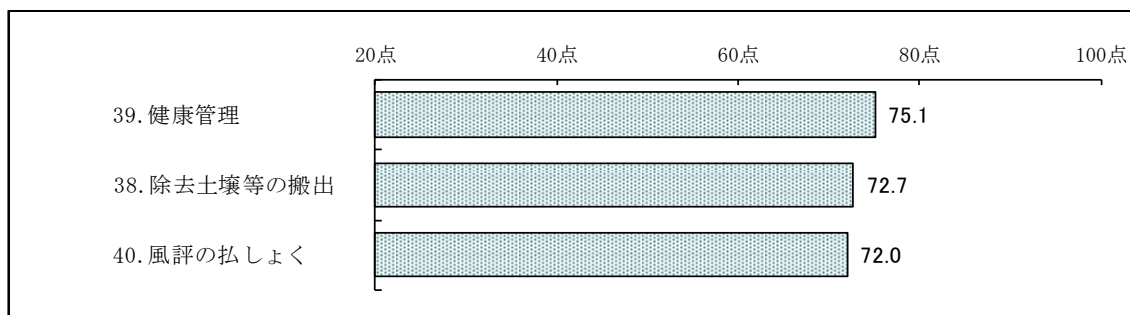


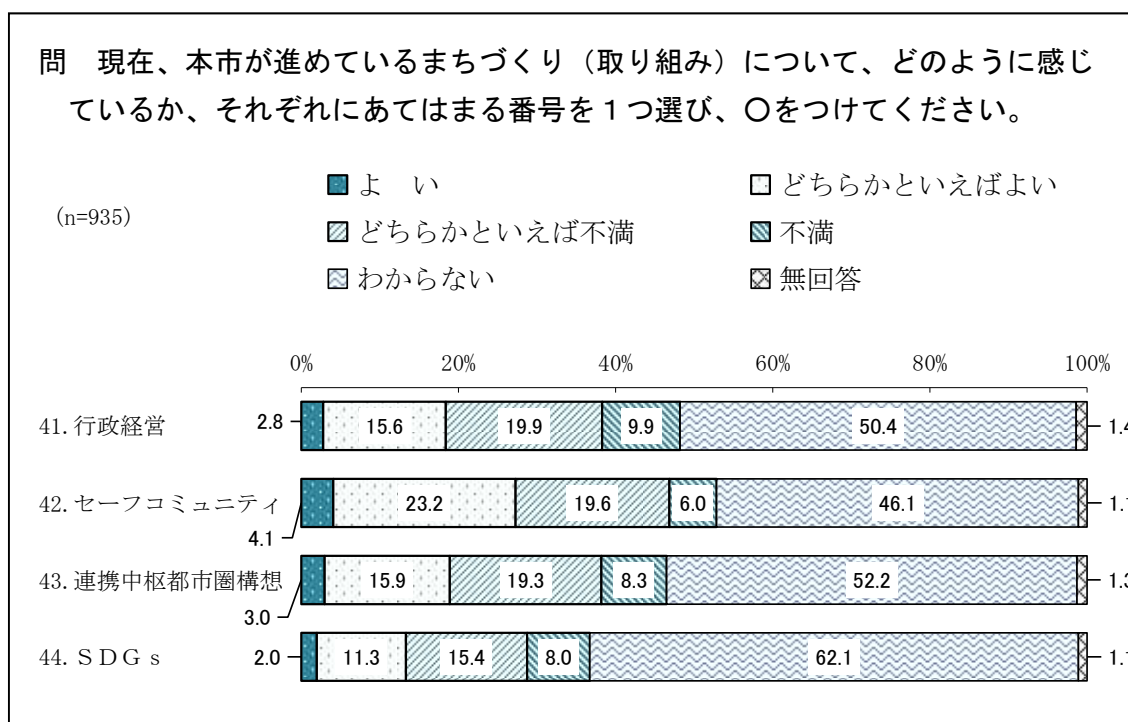
表 2-12 横断的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	健康管理 (73.9点)	健康管理 (75.8点)
2位	除去土壌等の 搬出 (72.1点)	除去土壌等の 搬出 (73.1点)
3位	風評の払しょく (71.0点)	風評の払しょく (72.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	健康管理 (83.3点)	健康管理 (76.2点)	風評の払しょく (75.3点)	健康管理 (76.6点)	除去土壌等の 搬出 (73.6点)	健康管理 (71.8点)	健康管理 (77.1点)
2位	除去土壌等の 搬出 (80.0点)	風評の払しょく (75.4点)	健康管理 (75.1点)	除去土壌等の 搬出 (73.5点)	健康管理 (73.5点)	除去土壌等の 搬出 (71.6点)	除去土壌等の 搬出 (73.1点)
3位	風評の払しょく (76.7点)	除去土壌等の 搬出 (73.0点)	除去土壌等の 搬出 (71.3点)	風評の払しょく (73.4点)	風評の払しょく (70.9点)	風評の払しょく (68.7点)	風評の払しょく (70.9点)

⑦基盤的取組

(行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『セーフコミュニティ』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『42. セーフコミュニティ』（27.3%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（29.8%）となっています。

また、すべての項目において「わからない」の割合が5割前後を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

セーフコミュニティ、連携中枢都市圏構想、SDGsについては、本市が近年取り組んでいる施策ですが、実施時期が早いほど「わからない」の割合が少なくなっています。そのため、具体的な事業推進により市民の認知度を高めることが重要と思われます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-8参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が69.6点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『44. SDGs』（64.0点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-13参照）

図 2-8 基盤的取組への満足度〈平均得点〉（全体）

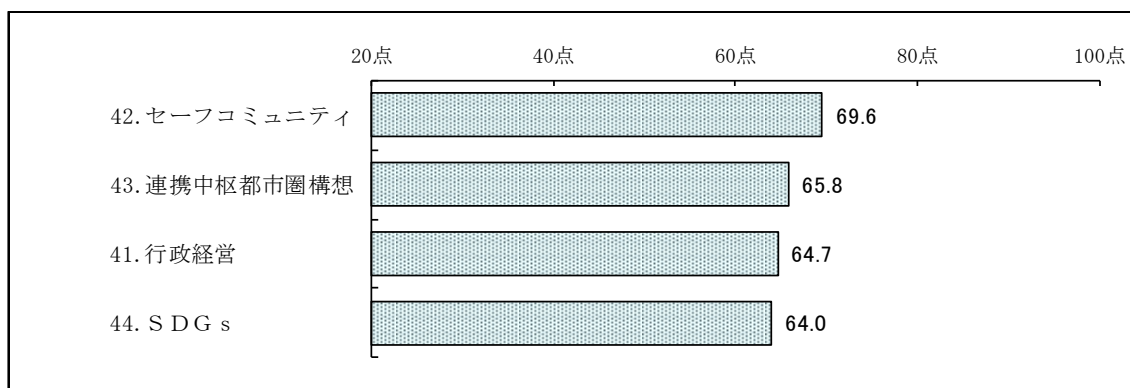


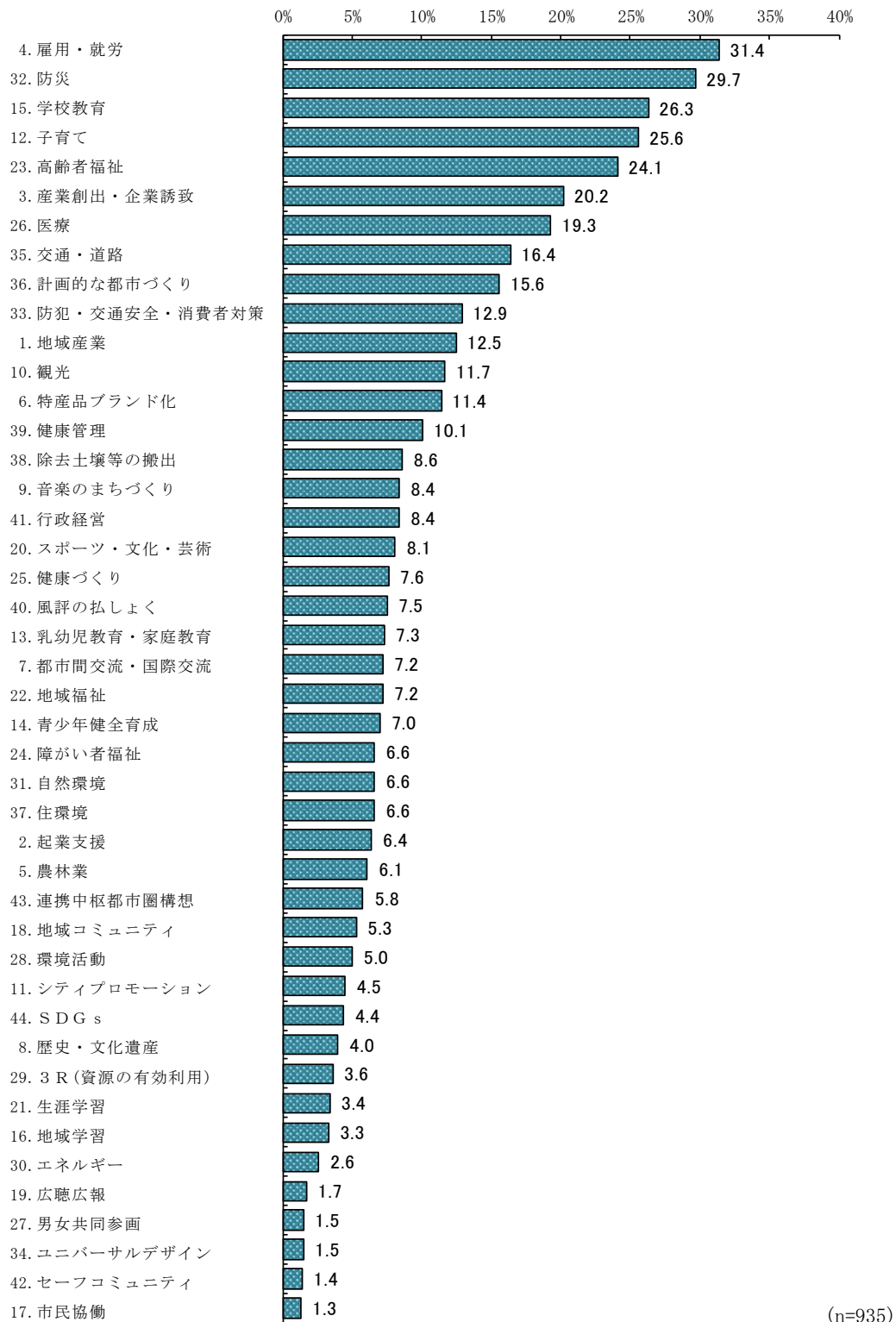
表 2-13 基盤的取組への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	セーフコミュニティ (70.0点)	セーフコミュニティ (68.8点)
2位	連携中枢都市圏構想 (65.7点)	連携中枢都市圏構想 (65.7点)
3位	行政経営 (65.0点)	SDGs (64.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	セーフコミュニティ (80.0点)	セーフコミュニティ (73.6点)	セーフコミュニティ (68.8点)	セーフコミュニティ (69.6点)	セーフコミュニティ (69.2点)	セーフコミュニティ (68.5点)	セーフコミュニティ (68.3点)
2位	行政経営 (76.7点)	連携中枢都市圏構想 (71.0点)	連携中枢都市圏構想 (63.8点)	連携中枢都市圏構想 (67.0点)	連携中枢都市圏構想 (64.5点)	行政経営 (65.6点)	行政経営 (68.1点)
3位	SDGs (75.0点)	行政経営 (69.4点)	SDGs (61.4点)	SDGs (65.1点)	SDGs (63.3点)	連携中枢都市圏構想 (63.4点)	連携中枢都市圏構想 (67.6点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取り組み) について、特に重要と思われるものの番号を1~44から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

『4. 雇用・就労』(31.4%)の割合が最も高くなっています。以下、『32. 防災』(29.7%)、『15. 学校教育』(26.3%)、『12. 子育て』(25.6%)、『23. 高齢者福祉』(24.1%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました。(表2-14参照)

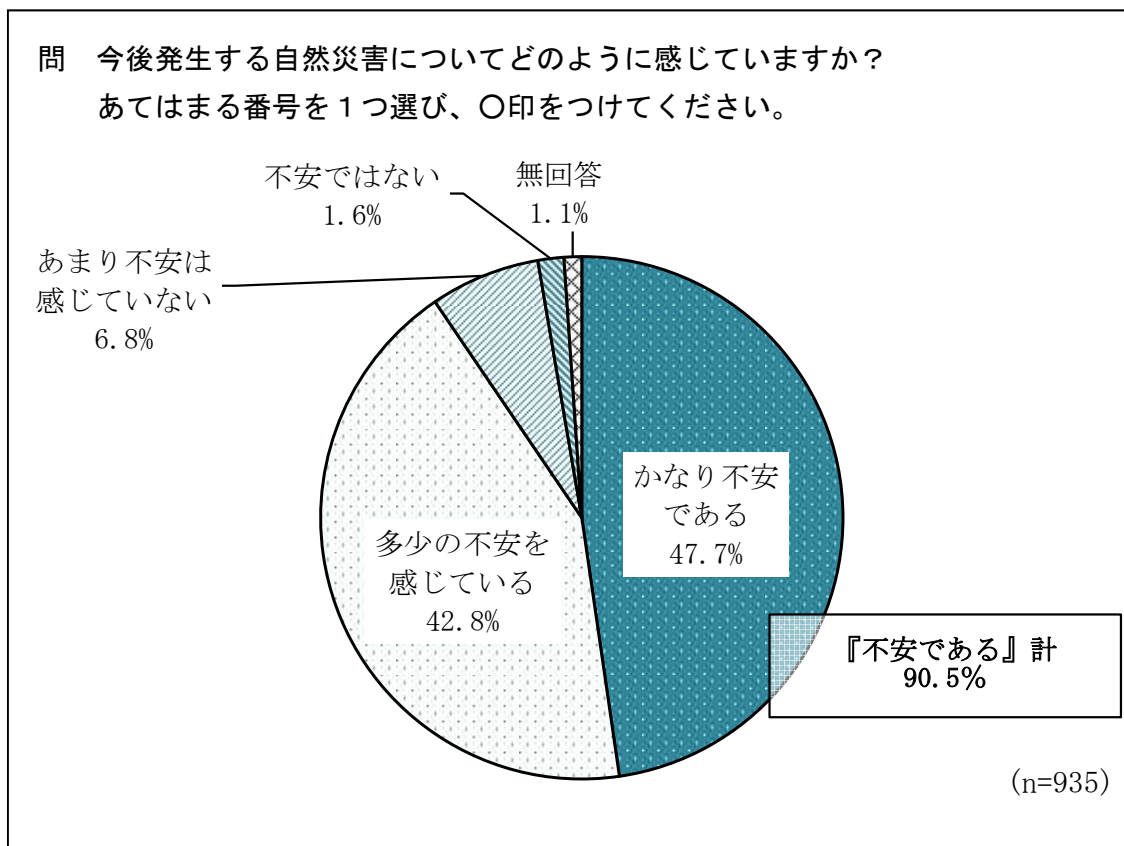
表2-14 これからの取組についての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	雇用・就労 (33.7%)	防災 (30.2%)
2位	防災 (29.9%)	雇用・就労 (30.0%)
3位	子育て (26.3%)	学校教育 (28.0%)
4位	産業創出・ 企業誘致 (25.8%)	高齢者福祉 (26.0%)
5位	学校教育 (24.6%)	子育て (25.2%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	学校教育 (60.0%)	雇用・就労 (39.5%)	防災 (39.2%)	防災 (37.1%)	雇用・就労 (35.5%)	雇用・就労 (32.5%)	高齢者福祉 (32.2%)
2位	防災 (35.0%)	子育て (39.5%)	雇用・就労 (37.5%)	雇用・就労 (36.5%)	防災 (35.5%)	高齢者福祉 (29.9%)	産業創出・ 企業誘致 (24.1%)
3位	子育て (30.0%)	防災 (25.6%)	子育て (32.5%)	学校教育 (36.5%)	高齢者福祉 (26.3%)	防災 (25.9%)	学校教育 (19.5%)
4位	スポーツ・ 文化・芸術 (30.0%)	学校教育 (23.3%)	学校教育 (25.0%)	子育て (28.2%)	学校教育 (24.3%)	子育て (25.4%)	健康管理 (19.0%)
5位	雇用・就労 (25.0%)	産業創出・ 企業誘致 (16.3%) 観光 (16.3%) 医療 (16.3%)	医療 (23.3%)	高齢者福祉 (24.7%)	産業創出・ 企業誘致 (23.0%)	学校教育 (24.4%)	防災 (18.4%)

3. 令和元年東日本台風について

(1) 自然災害への不安感



9割の市民が自然災害への不安を感じている

【全体結果】

自然災害への不安感については「かなり不安である」（47.7%）と「多少の不安を感じている」（42.8%）の両者を合計した『不安である』計（90.5%）は約9割となっています。

一方、「不安ではない」（1.6%）と「あまり不安は感じていない」（6.8%）を合計した『不安ではない』計は1割未満（8.4%）となっています。

【属性別結果】（図3-1参照）

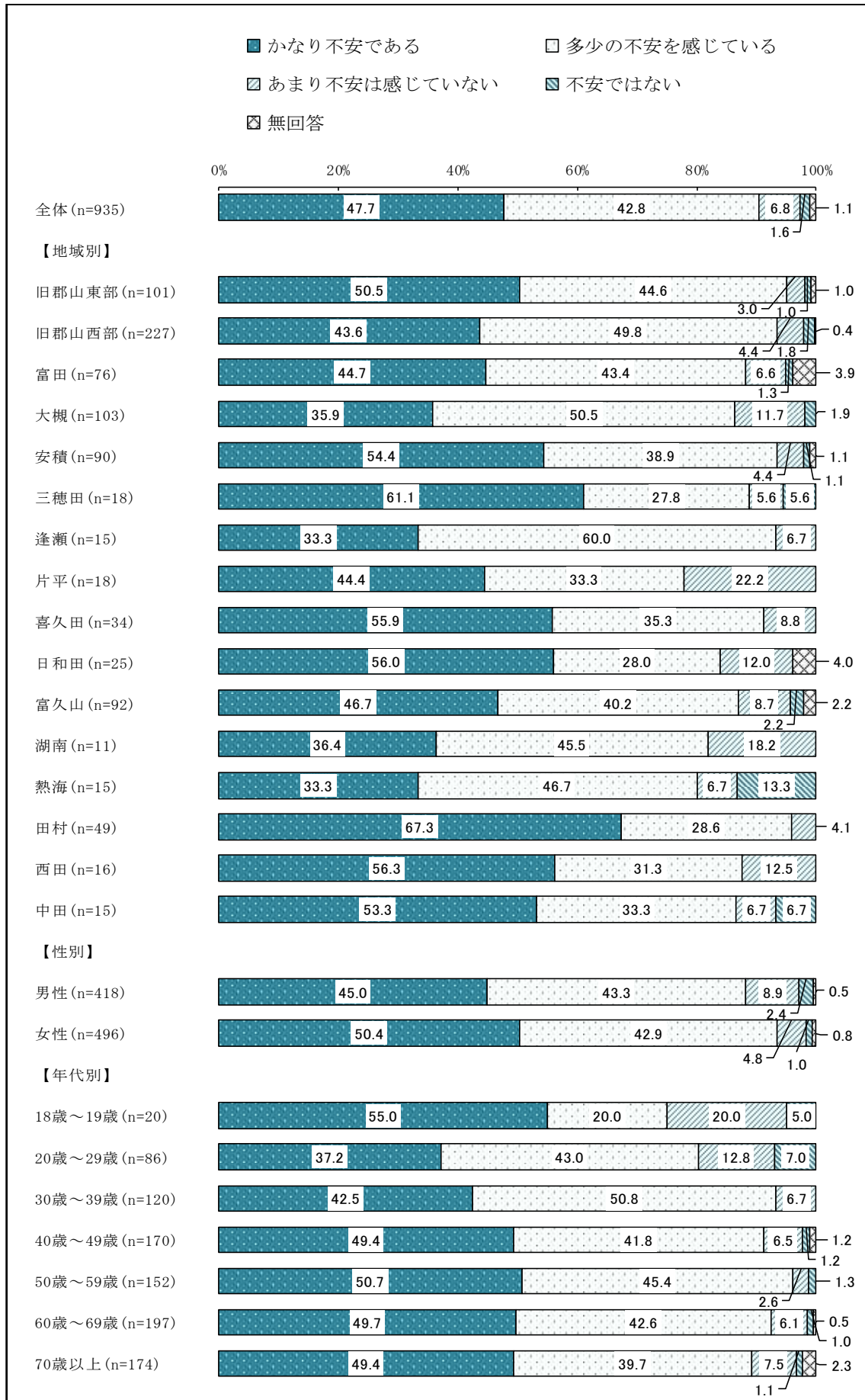
① 性別

『不安である』計の割合は、女性（93.3%）の方が男性（88.3%）よりも高くなっています。

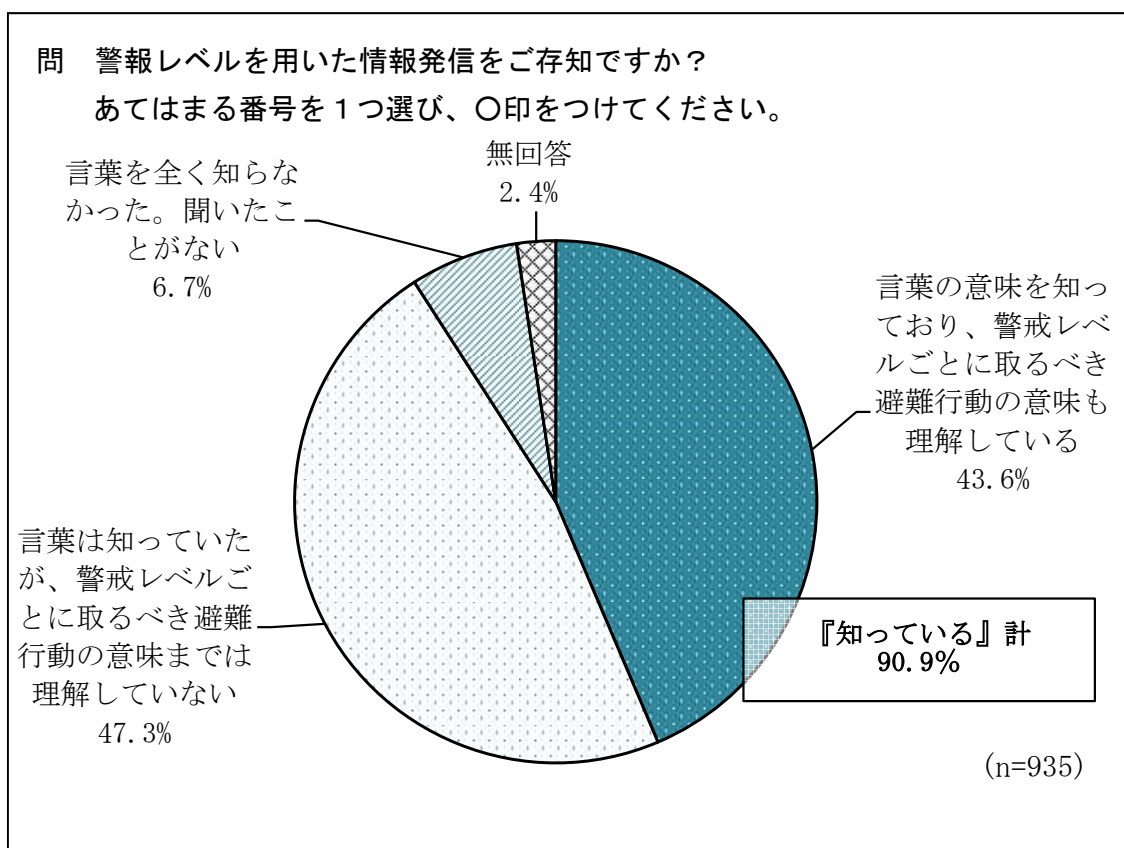
② 年代別

『不安である』計の割合は、50代（96.1%）で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代（80.2%）でした。

図3-1 自然災害への不安感（地域別／性別／年代別）



(2) 警報レベルを用いた情報発信の認知状況



9割の市民が認知しているが内容理解は4割

【全体結果】

警報レベルを用いた情報発信の認知状況については「言葉の意味を知っており、警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味も理解している」(43.6%)と「言葉は知っていたが、警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味までは理解していない」(47.3%)の両者を合計した『知っている』計(90.9%)は約9割となっています。

「言葉の意味」「警戒レベルごとに取りべき避難行動の意味」を共に理解した上での行動が求められることから、今後も更なる周知に努めていく必要があります。

【属性別結果】(図 3-2 参照)

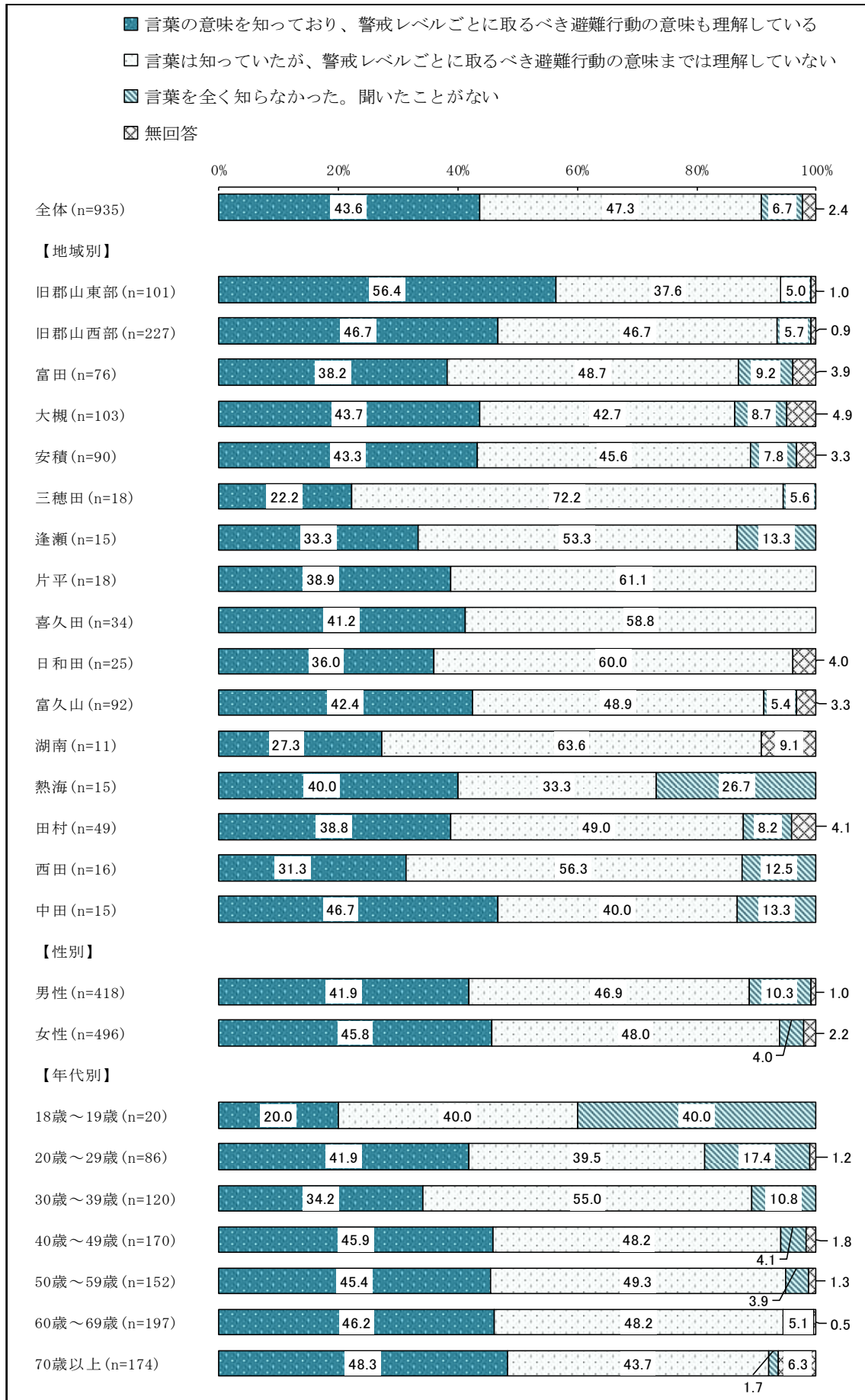
① 性別

『知っている』計の割合は、女性(93.8%)の方が男性(88.8%)よりも高くなっています。

② 年代別

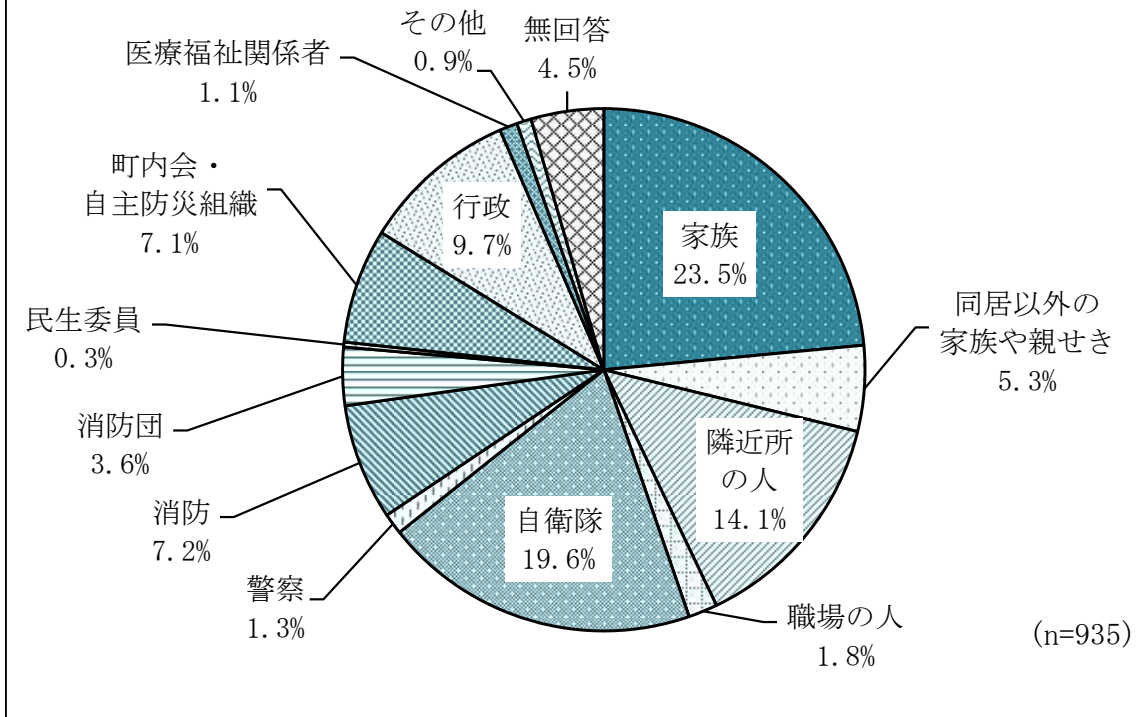
『知っている』計の割合は、50代(94.7%)で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代(81.4%)でした。

図3-2 警報レベルを用いた情報発信の認知状況（地域別／性別／年代別）



(3) 災害時に有効的と思われる協力先

問 もし、あなたの身近で災害が発生した際に、どのような方や組織等からの協力が最も有効的だと思いますか？最も有効的だと思う番号を1つ選び、○印をつけてください。



最も有効的と思われる協力先は「家族」

【全体結果】

災害時に有効的と思われる協力先については「家族」(23.5%)の割合が最も高くなっています。以下、「自衛隊」(19.6%)、「隣近所の人」(14.1%)の順で続いています。

【属性別結果】(図 3-3 参照)

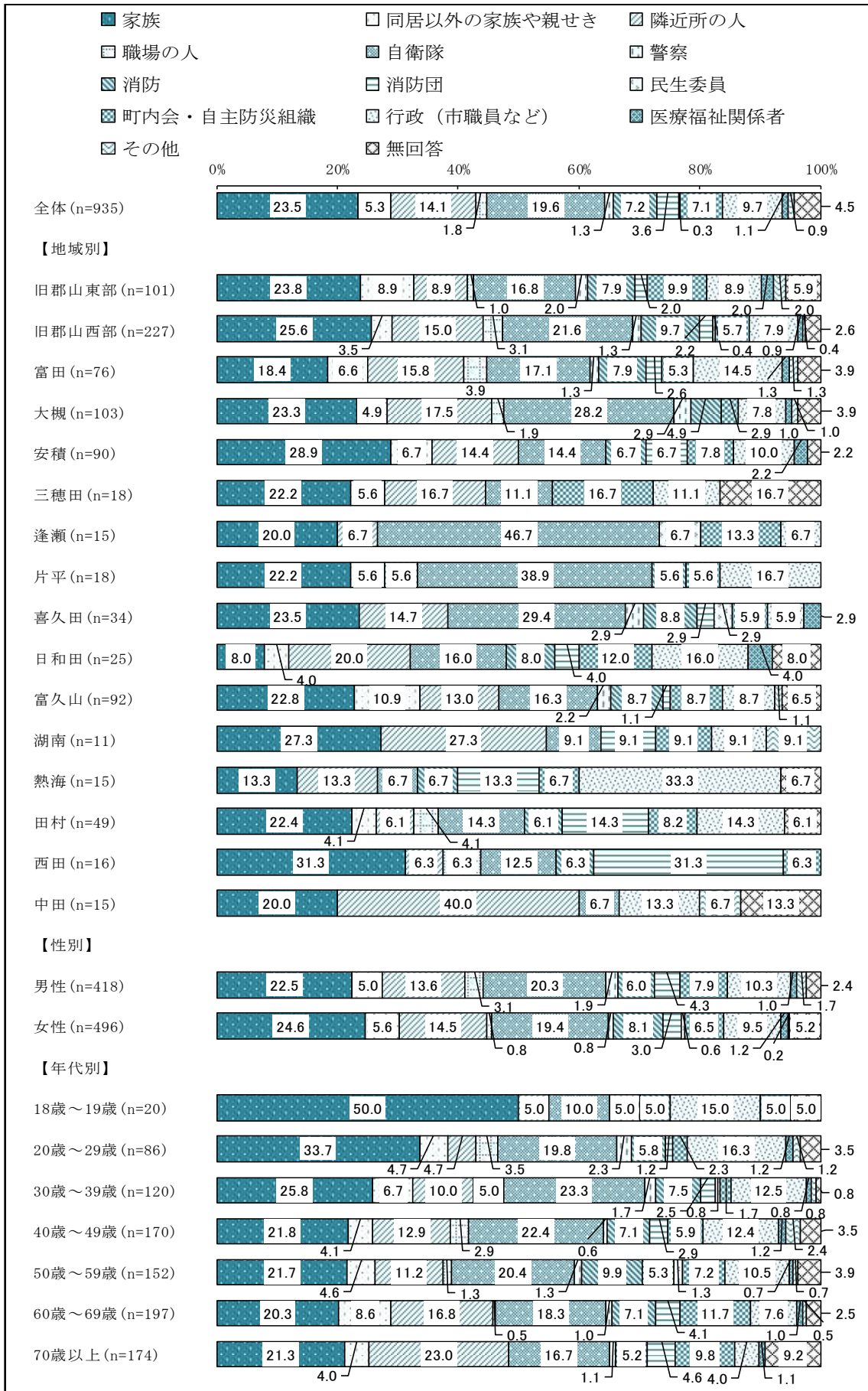
① 性別

性別では、大きな差は見られません。

② 年代別

年齢が若いほど「家族」の割合が高くなっています。一方、「隣近所の人」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

図3-3 災害時に有効的と思われる協力先（地域別／性別／年代別）



(4) 「自らの命を自らが守る」ために重要なこと

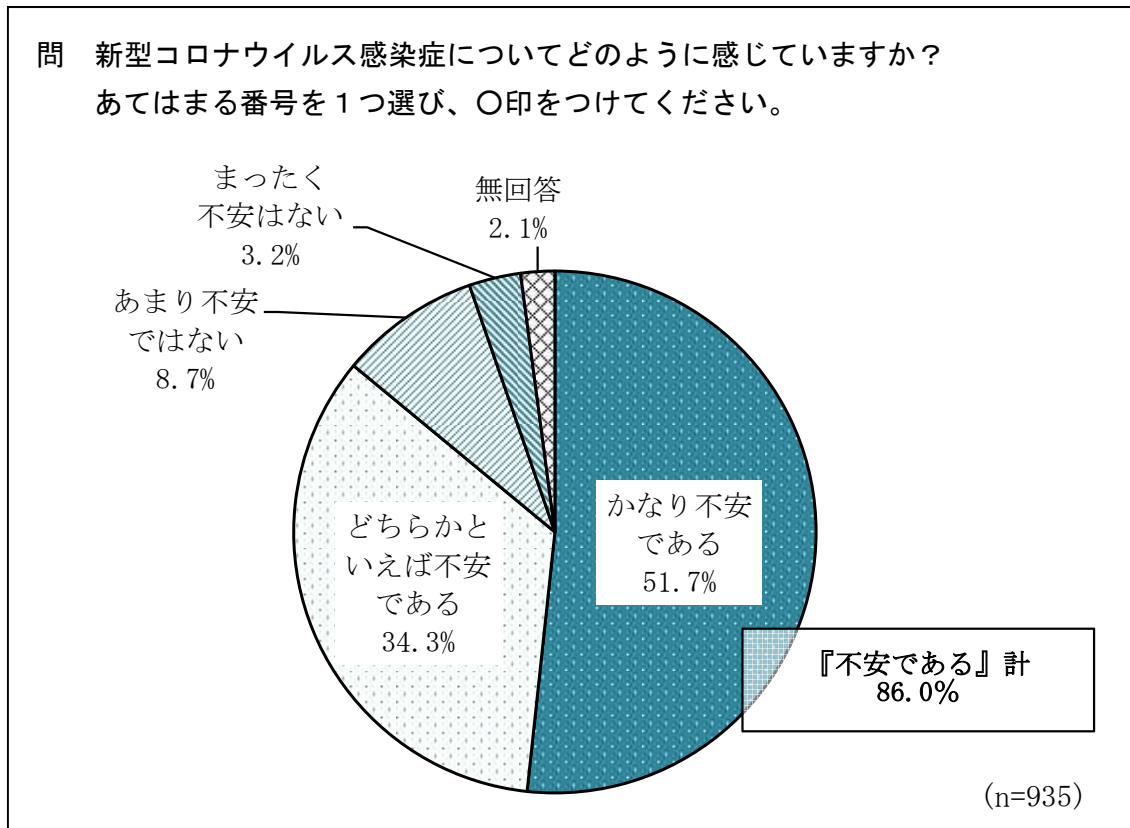
問 あなたは、「自らの命を自らが守る」ためにはどのようなことが重要だと思いますか？ご意見やご提案等がありましたら、ご自由にお書きください。(自由記載)

「自らの命を自らが守る」ために重要なことについてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を抜粋し、掲載しました。

- ・ 地域の特性をしっかりと把握することが第一に大切と考えています。それによって災害が起きた場合の避難先を決めておけると思っています。同居の家族と常に意志の疎通をはかること。(女性・70代以上)
- ・ 常時、車のガソリンは満タンにしています。お風呂の中には水をため、備蓄をし、運動を心がけ体力づくりをしています。(女性・60代)
- ・ 自分は大丈夫ではなく、情報を確認し行動する。(男性・50代)
- ・ 周辺に住む高齢者の把握と連絡手段の確認。(女性・10代)
- ・ 避難できる準備を常に(月に1回)かばんの中をチェックし、持ち出せる場所に置き、家族とは連絡できない時のために集合場所を決めておく。(女性・40代)
- ・ 最悪な場合を想定し早めの準備、避難を心がける。備蓄品の準備。市や地域からの情報発信を多くする。(女性・30代)
- ・ 隣近所の人達と日頃からコミュニケーション。(女性・70代以上)
- ・ 災害があると水や食料の供給が不安定になるので備蓄をしています。“自分らの命は自分で守る”意識の確認が必要だと思います。(女性・60代)
- ・ 年齢層に関係なく、分かりやすい避難場所の表示、開示してほしい。(男性・40代)
- ・ 教育機関での防災に対する学習とコミュニティが大事だと思います。(男性・20代)
- ・ ペット(犬)がいるのでペットといっしょに避難できる場所がほしい。つくってほしいです。(女性・60代)
- ・ もしもの時の救命行為を目で見たり、実際のやり方を指導してもらえるような講習会を広く開催してもらえればありがたいと思います。(女性・30代)
- ・ 災害時、隣近所の人と助け合うことが一番であるが高齢者ばかりです。家族の避難をすみやかにするには正確な情報の入手を早くして間違いのない場所への移動をする。(男性・70代以上)
- ・ 「防災さんぽ」初めて聞きましたが、個人レベルでできることとしてはいいことだと思います。(男性・60代)
- ・ 障がい者の避難などレクチャーしてほしい。体制も整えてほしい。(男性・60代)
- ・ 防災時の行動、補償等のアフターフォローの周知徹底をすること。(男性・30代)
- ・ 避難場所を知っておくことに加え、自宅が例えば水害に対してはどれだけ安全、危険な場所であるかをハザードマップ等を活用して把握しておく。(下手に避難した方が危ない場合もある)(男性30代)

4. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症への不安感



—— 9割の市民が新型コロナウイルス感染症への不安を感じている ——

【全体結果】

新型コロナウイルス感染症への不安感については「かなり不安である」(51.7%)と「どちらかといえば不安である」(34.3%)の両者を合計した『不安である』計(86.0%)は9割弱となっています。

一方、「まったく不安はない」(3.2%)と「あまり不安ではない」(8.7%)を合計した『不安はない』計は1割程度(11.9%)となっています。

【属性別結果】(図4-1参照)

① 性別

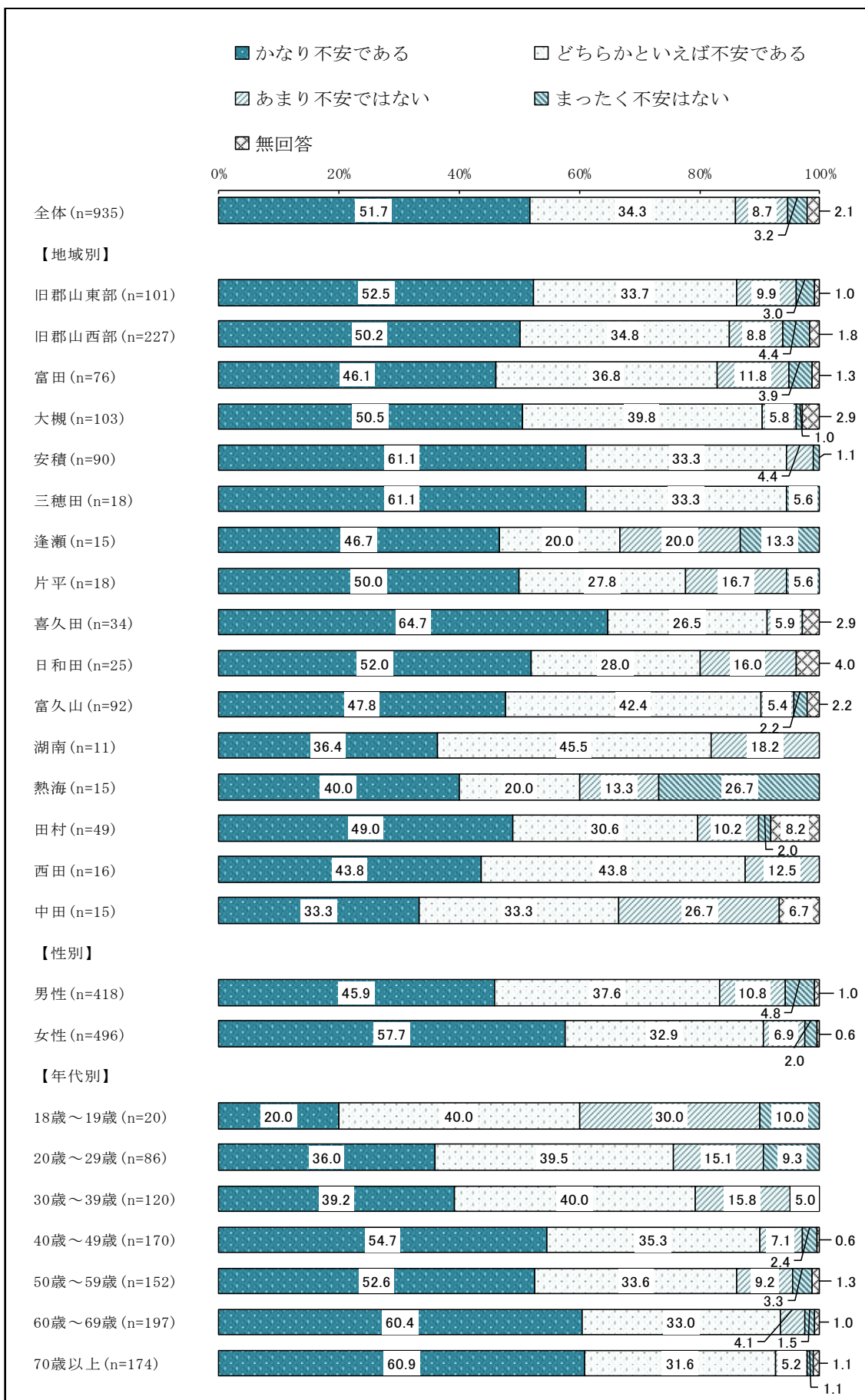
『不安である』計の割合は、女性(90.6%)の方が男性(83.5%)よりも高くなっています。

② 年代別

『不安である』計の割合は、年代が上がるほど概ね増加傾向があり、60代(93.4%)で最も高くなっています。

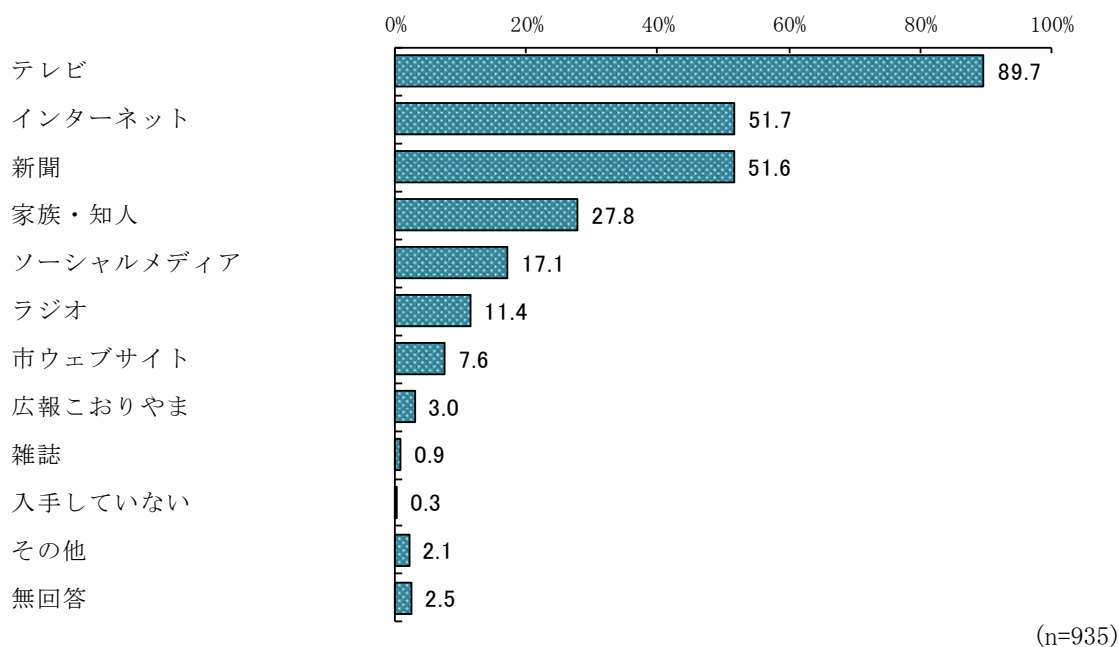
一方で、最も低いのは20代(75.5%)でした。

図 4-1 新型コロナウイルス感染症への不安感（地域別／性別／年代別）



(2) 新型コロナウイルスに関する情報入手経路（複数回答）

問 新型コロナウイルスに関する情報をどのような方法で取得していますか？
特に情報を取得する際に利用しているものの番号を1～11から3つ選び、
○印をつけてください。



— 新型コロナウイルスに関する情報は9割が「テレビ」から得ている —

【全体結果】

新型コロナウイルスに関する情報入手経路については「テレビ」(89.7%)が約9割を占め、突出して高くなっています。次いで、「インターネット」(51.7%)と「新聞」(51.6%)がともに約5割と拮抗しています。

一方、「市ウェブサイト」(7.6%)や「広報こおりやま」(3.0%)から情報を入手する割合は低く、1割を下回っています。

【属性別結果】(図4-2参照)

① 性別

「家族・知人」、「ソーシャルメディア」では、女性の方が男性よりも5%程度高くなっています。

② 年代別

年齢が上がるほど「テレビ」、「新聞」を利用している割合が高くなっています。

一方、40代までの年代は、7割以上が「インターネット」から情報を入手しています。

今後、若い世代への情報の普及に向け、インターネットによる積極的な情報発信をしていく必要があると思われます。

図4-2 新型コロナウイルスに関する情報入手経路～1/4～（地域別／性別／年代別）

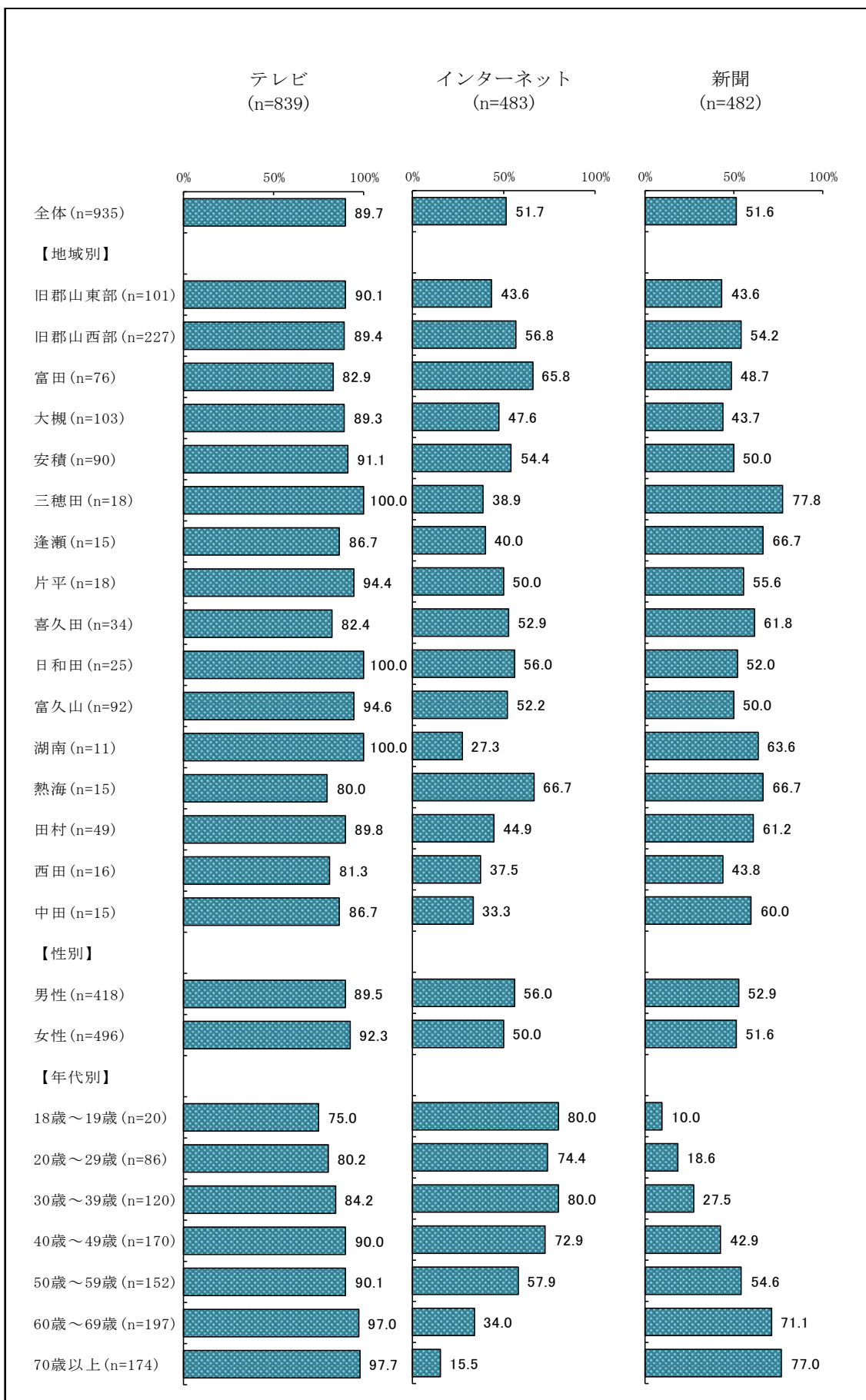


図4-2 新型コロナウイルスに関する情報入手経路～2/4～（地域別／性別／年代別）

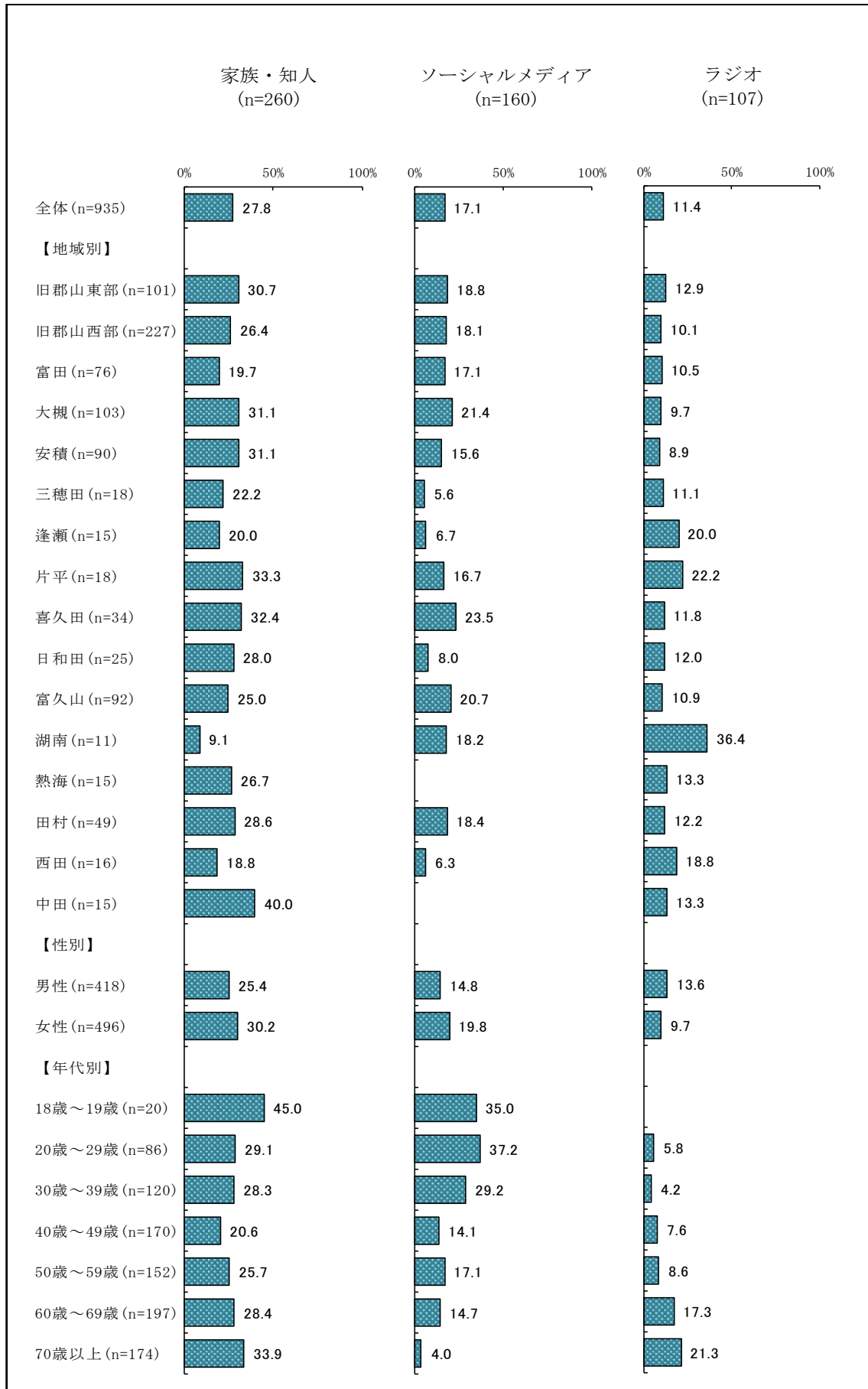


図4-2 新型コロナウイルスに関する情報入手経路～3/4～（地域別／性別／年代別）

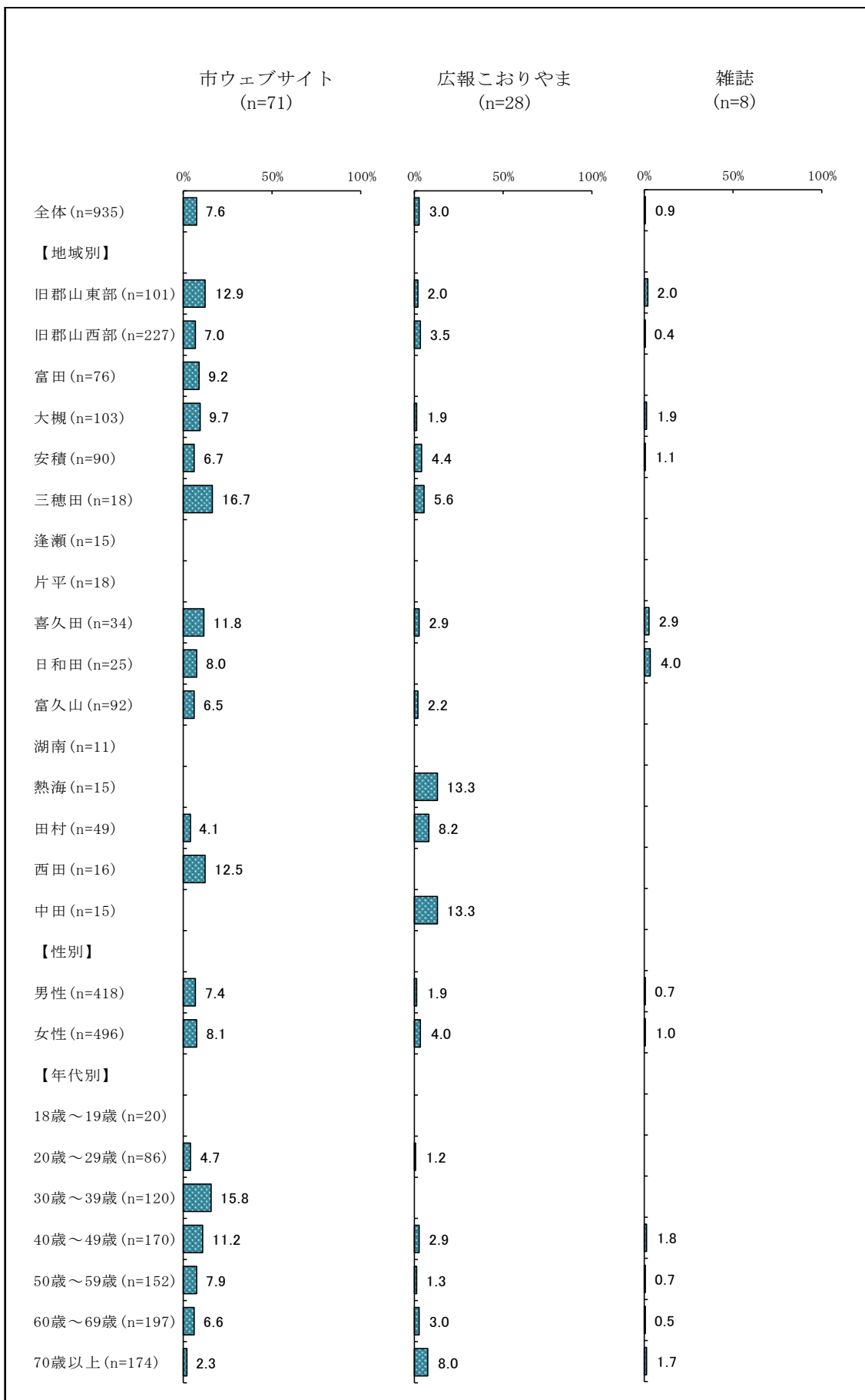
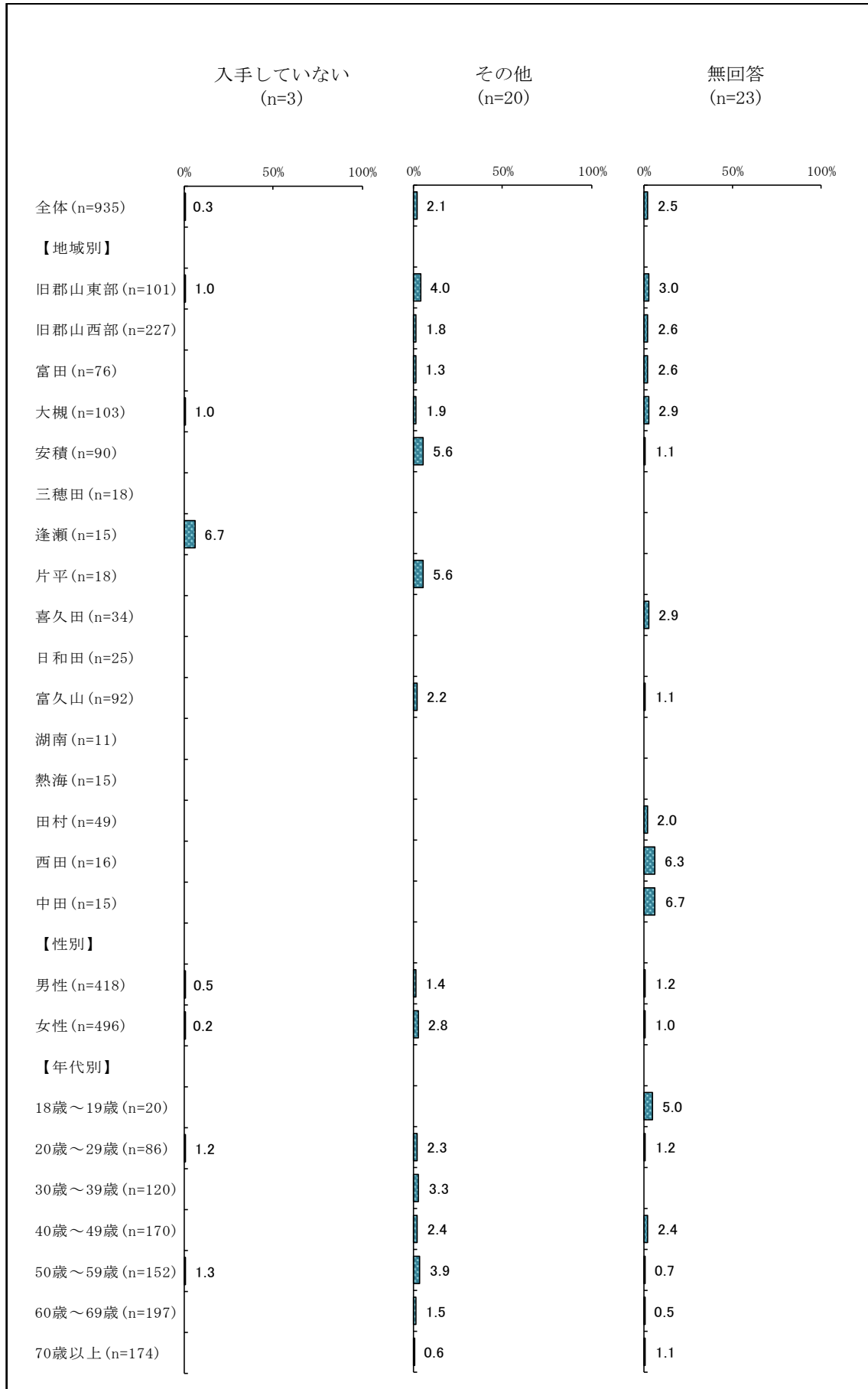
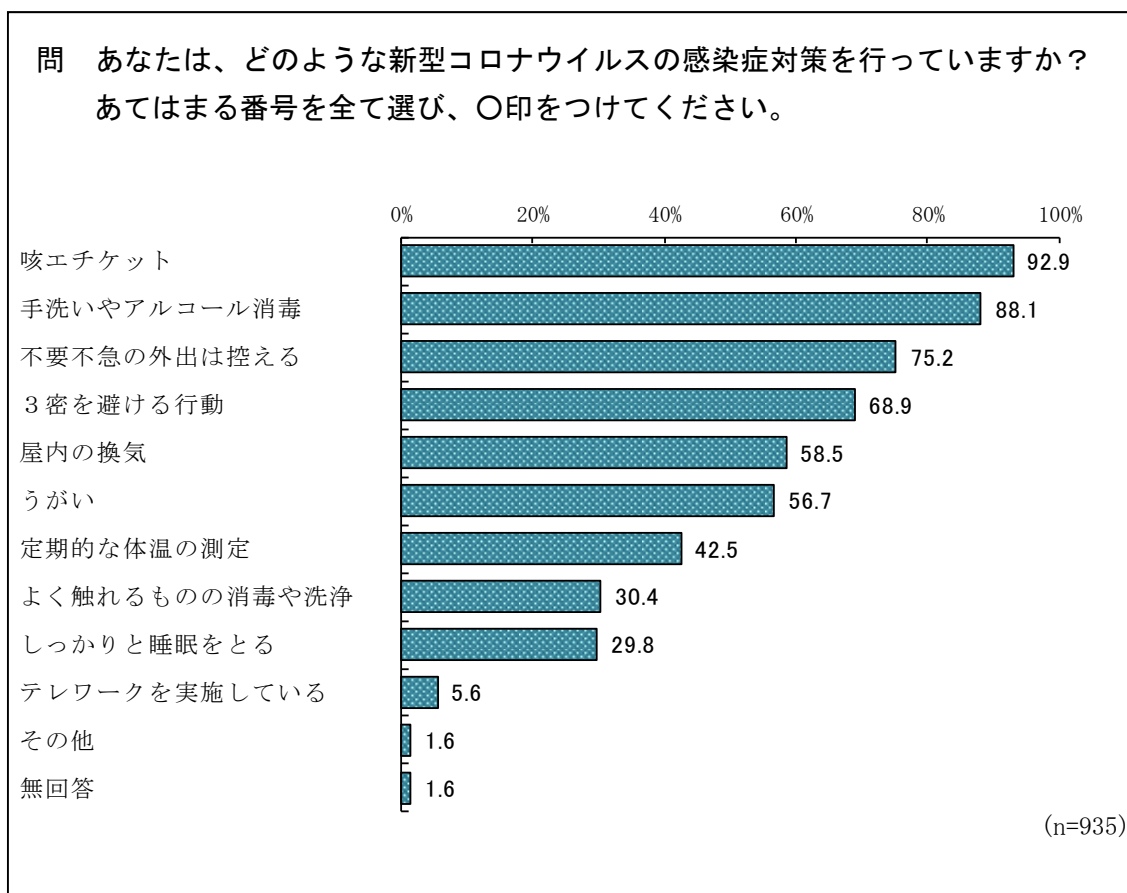


図4-2 新型コロナウイルスに関する情報入手経路～4/4～（地域別／性別／年代別）



(3) 新型コロナウイルスの感染症対策（複数回答）



— 「咳エチケット」「手洗いやアルコール消毒」「不要不急の外出は控える」 など多岐にわたる—

【全体結果】

新型コロナウイルスの感染症対策については「咳エチケット」（92.9％）の割合が最も高くなっています。以下、「手洗いやアルコール消毒」（88.1％）、「不要不急の外出は控える」（75.2％）の順で続いています。

【属性別結果】（図 4-3 参照）

① 性別

「不要不急の外出は控える」、「屋内の換気」、「うがい」、「よく触れるものの消毒や洗浄」では、女性の方が男性よりも1割以上高くなっています。

② 年代別

「咳エチケット」は、すべての年代で9割以上と高くなっています。「不要不急の外出は控える」、「3密を避ける行動」は、30代以上で7割以上が対策を行っているのに対し20代では5割程度にとどまっています。

今後は、若い世代に向け、責任ある行動を呼びかける必要があると思われます。

図4-3 新型コロナウイルスの感染症対策～1/4～（地域別／性別／年代別）

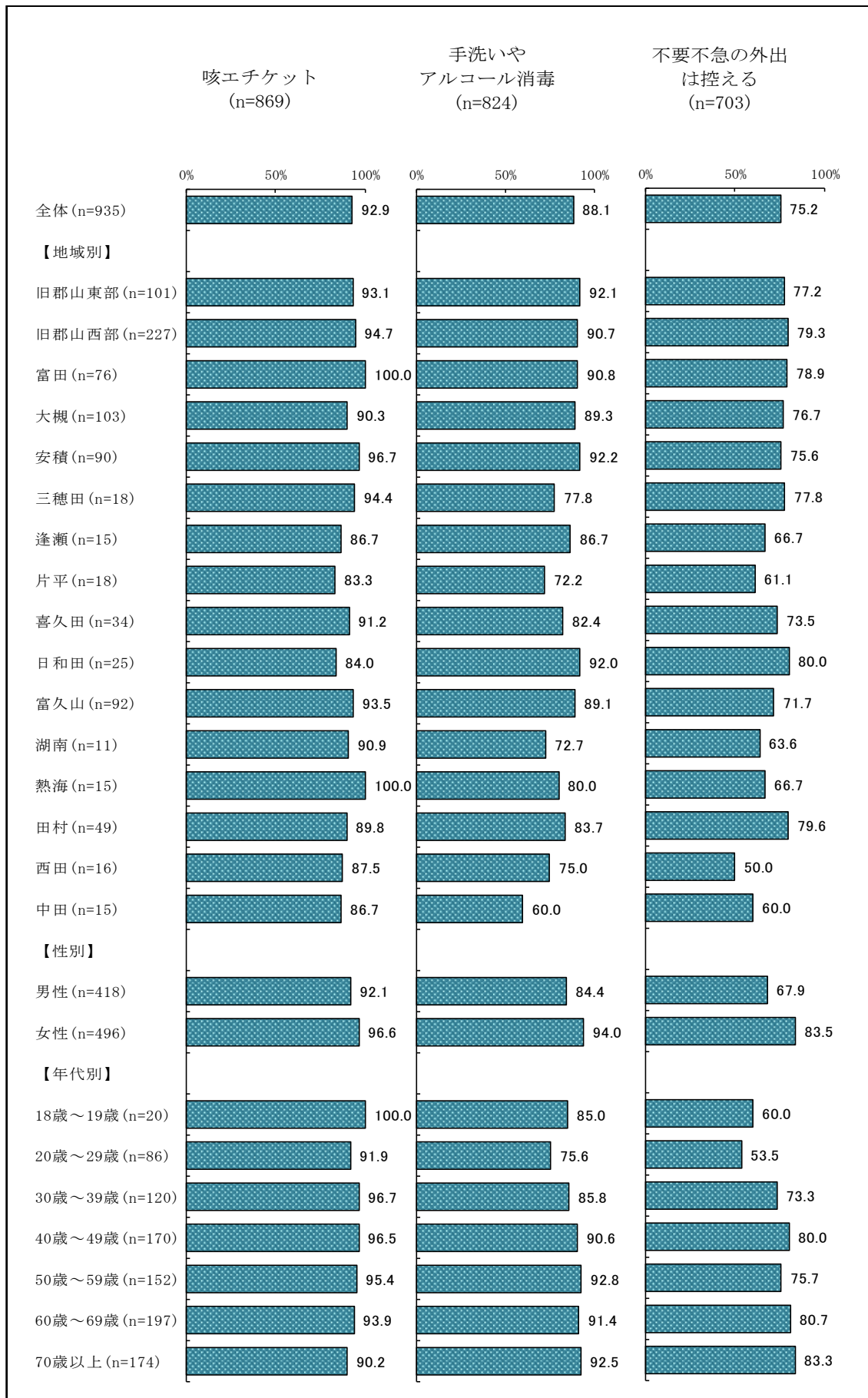


図4-3 新型コロナウイルスの感染症対策～2/4～（地域別／性別／年代別）

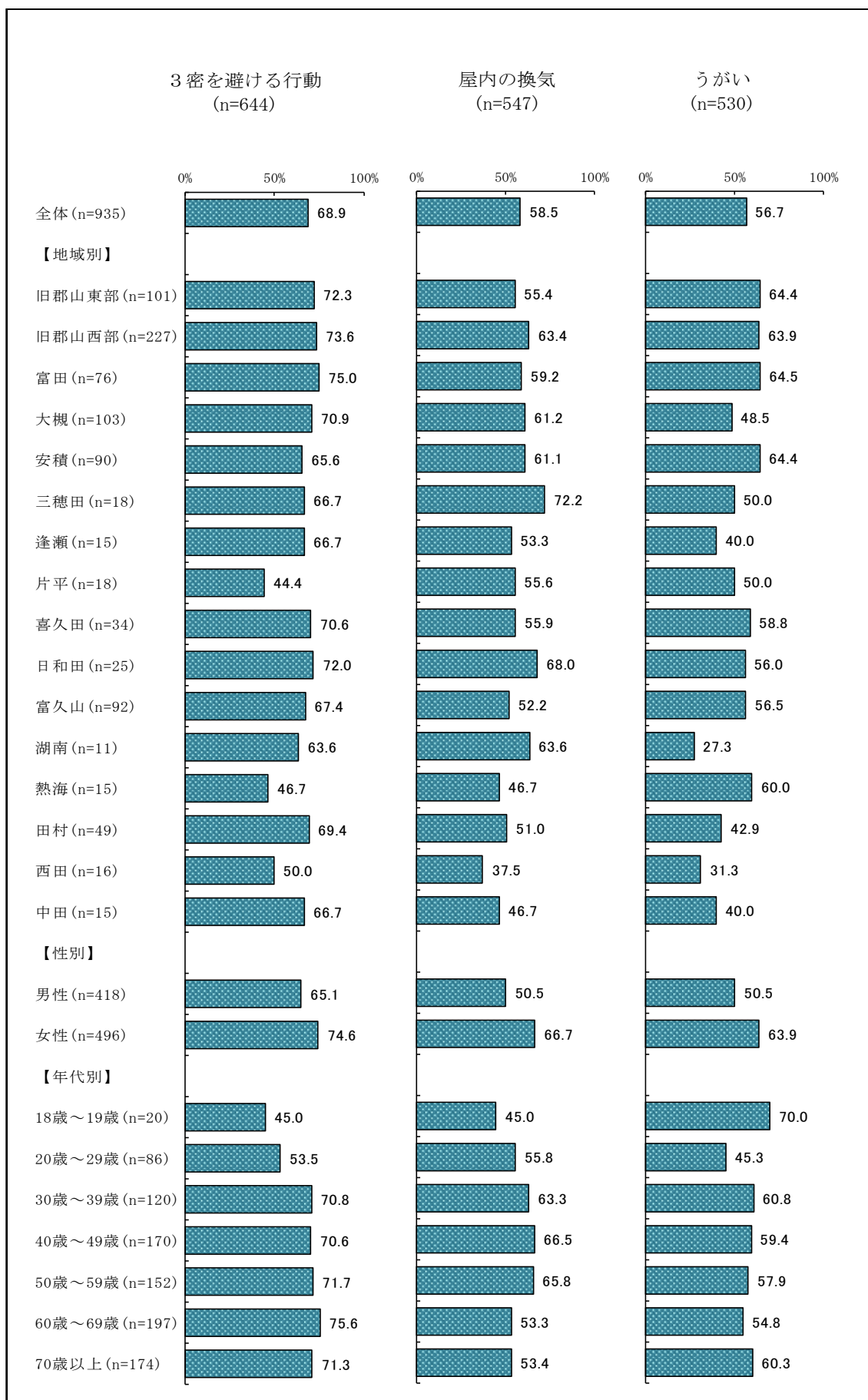


図4-3 新型コロナウイルスの感染症対策～3/4～（地域別／性別／年代別）

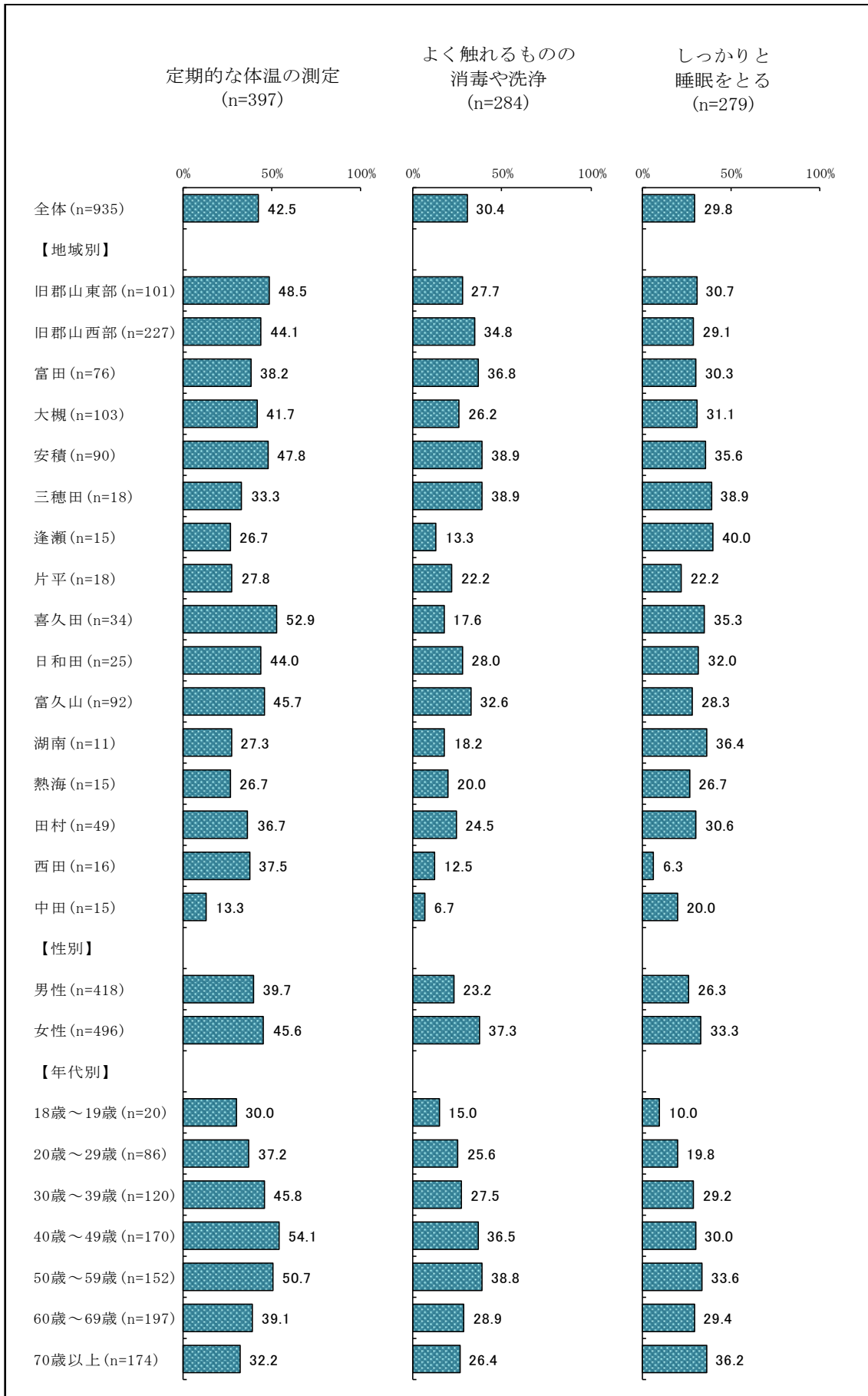
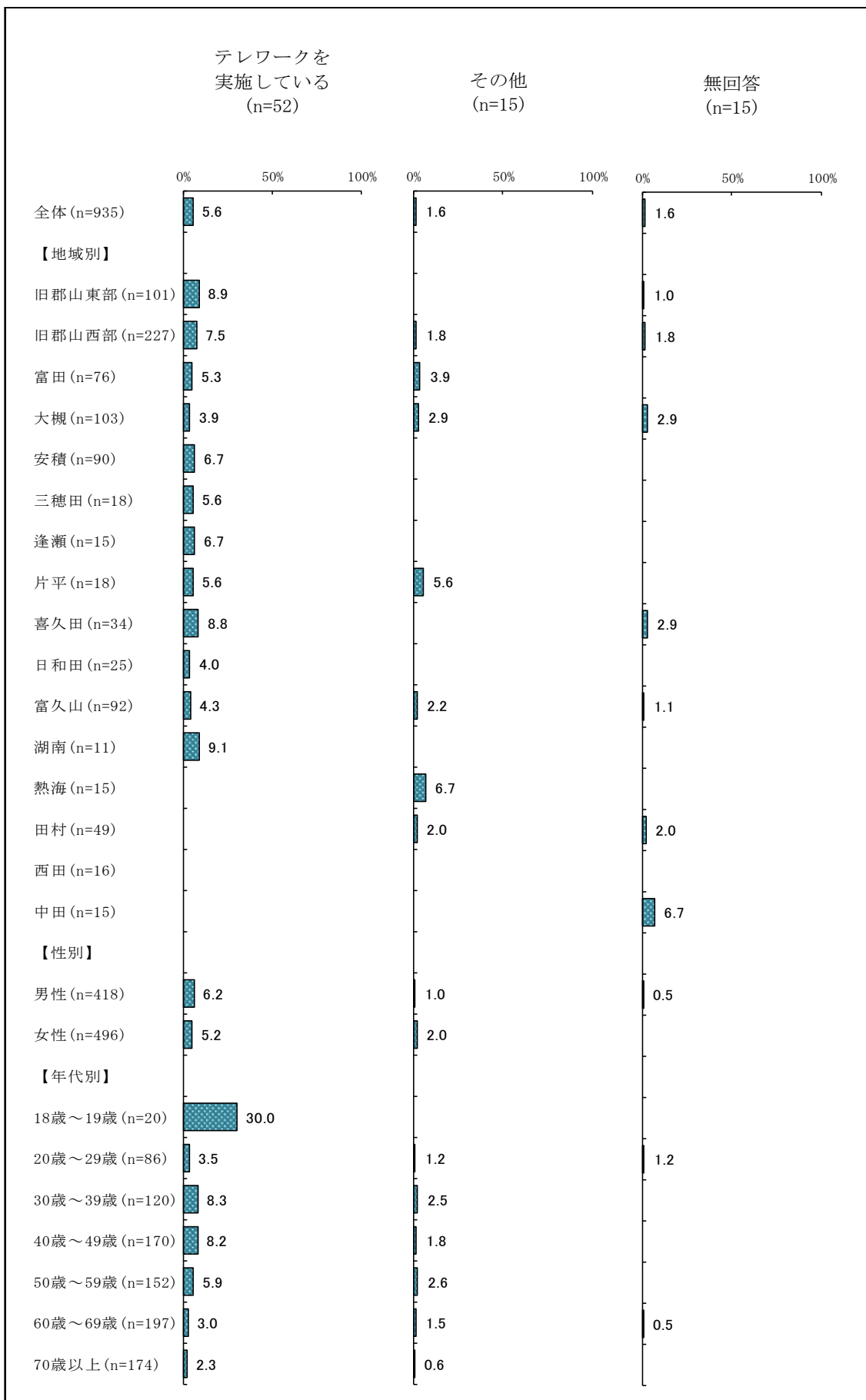


図4-3 新型コロナウイルスの感染症対策～4/4～（地域別／性別／年代別）



(4) 新型コロナウイルス感染症についての意見や提案

問 新型コロナウイルス感染症について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。(自由記載)

新型コロナウイルス感染症についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を抜粋し、掲載しました。

- ・ 今回は収束に向かっているが、今後も発生すると思う。普段から感染症に対して警戒心を持っているべき。(男性・60代)
- ・ これからは、ウイルスとの「共存」がキーワードになる。無理のない自衛を続ける。また、医療関係者への差別は、絶対にあってはならない。(男性・40代)
- ・ コロナに対して恐れず正しく理解し、冷静な対応が取れるようにしたい。(女性・60代)
- ・ 医療崩壊しないために早めに対策を取ってほしい。(女性・30代)
- ・ 様々な対応、ありがとうございます。不要不急の外出の自粛で家族で過ごす時間が増えうれしく思います。マイナスな情報が多いと感じているので、ぜひ広報等に取り組みで実践できそうなことなどを取り上げてもらえるとうれしいです。(女性・30代)
- ・ 終息が未知のため、このまま手探り状態が続いてしまって経済活動がどんどん悪くなり、暮らし方、生き方がどん底になってしまったらととても心配です。市民からいつどんな時でも頼られる郡山市を確立してください。(女性・60代)
- ・ 今は一時的に落ち着いていますが、万が一この後また感染が広がった場合、学校の休校等の判断を速やかにお願いしたい。(女性・30代)
- ・ 他の自治体が災害訓練をしているように郡山市も体制をつくってほしい。市民をまじえた避難所運営についての話し合いをしてもいいと思われる。(女性・60代)
- ・ 多数が集まる公民館活動他密集場所の禁止が郡山市でもいち早く実行に移したと思います。(女性・70代以上)
- ・ “正しく恐れる”との発信がありましたが、情報が足りなく不安をあおった。まずは情報の開示と検査を受けられる安心感が必要と思う。最近県の検査数が報道されるようになり少し安心感がある。(女性・60代)
- ・ 思いやりのある考働、行動。(男性・40代)
- ・ 人の力ではどうにもならないことなんです、これまで仕事が出来ない人、給料が支払われない人、会社など収入がない方には補償を考えてほしいと思います。(女性・60代)
- ・ 今回の教訓を活かして、今後の対応策のマニュアル設定を検討すべきではないか？(男性・70代以上)

5. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取り組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来

【地域産業】

- ・ 地域産業が活性化されていないと感じているのは私だけでしょうか。まず今年度と前年度を比較するなど可視化された情報があるなら別ですが、行政がどんな役割を果たし、成果をあげているのか全く分かりません。(男性・30代)

【起業支援】

- ・ 女性が起業しやすくするためのセミナー等一般にも分かるようなセミナーを開催してほしい。(女性・70代以上)

【産業創出・企業誘致】

- ・ 廃校を利用した企業誘致の推進。学校がもったいない！(男性・50代)

【雇用・就労】

- ・ 台風などの自然災害やコロナウイルスなど失業した人の雇用対策をしっかりと進めてほしい。(女性・50代)

【農林業】

- ・ ブランド野菜でがんばっている農家さんも多い。ただ、郡山といたらコレ！！という話題は少ない。台風による撤退、コロナによる倒産が増え、今後が不安。(女性・20代)

【特産品ブランド化】

- ・ 郡山のブランドをもう少しアピールしてほしいです。おいしい物があるのに！(女性・50代)

【分野Ⅱ】交流・観光の未来

【都市間交流・国際交流・関係人口】

- ・ ファンダールンのオランダともっと交流してほしい。(男性・60代)

【歴史・文化遺産】

- ・ 文化財や遺跡など歴史をつなげ、土地の人柄と結び付けながらのPRがいいと思う。(男性・40代)

【音楽のまちづくり】

- ・ 音楽に関する交流の場所、コンサートホールや野外施設の充実をしてほしい。
(男性・50代)

【観光】

- ・ 今回のコロナの件で観光は大変だと思います。クーポン券があれば利用したいと思います。(女性・60代)

【シティプロモーション】

- ・ 魅力がどうやって発信してるのか分からない。学校とかテレビCMとかみんなに届くようなPRが必要だと思います。(男性・50代)

【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来

【子育て】

- ・ ニコニコこども館など子育ての環境は整っていると思う。これからも頑張ってもらいたい。(男性・40代)

【乳幼児教育・家庭教育】

- ・ 家庭と教育機関の連携はちゃんと機能しているのか疑問です。教育機関からの情報は発信されているが、家庭から疑問があっても全く反映されていません。ましてや企業や地域との連携は全くされていません。(女性・40代)

【青少年健全育成】

- ・ 青少年育成といってもただ見回りするだけでは。家庭環境もあると思うので、寄りそった行政の形が求められていると感じます。(男性・30代)

【学校教育】

- ・ ITや英語教育など、学ぶ環境が家庭や学校により差があると思う。放課後学習などをもっと積極的に行っていただき、経済的に高額な負担をかけなくても、一定の水準でこれらをより学べる機会があるといいと思う。(女性・40代)

【地域学習】

- ・ 地元を誇れる地域教育がまだまだ不足。(男性・40代)

【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来

【市民協働】

- ・ 社会参加、生涯学習等環境は整っているが車の運転が出来ないとほぼ参加できない。(女性・60代)

【地域コミュニティ】

- ・ メンバーの固定化、高齢化が目立つ。新しい者が入って行くには心理的抵抗がある。担当者の負担が大きくなっているから誰でも来易くという風にはいかない。
(男性・70代以上)

【広聴広報】

- ・ 広報こおりやまを毎月楽しみにしています。これからも郡山の情報を分かりやすく伝えてほしいです。(女性・40代)

【スポーツ・文化・芸術】

- ・ 公共の場を活用して学びの機会、スポーツする機会を増やす環境をつくってほしい。
(女性・40代)

【生涯学習】

- ・ 大学や商業施設における学びの場は多くあると思う。市や公民館主催のものもあればと感じている。(女性・50代)

【地域福祉】

- ・ 一人暮らしの高齢者サポート。ご近所さんにめぐまれた人はサポートも受けているようですが、施設不足・入所による問題で自宅で過ごしている人もいます。子育ては地域の人とのサポート体制があるようですが、高齢者へのサポート体制はあるのでしょうか？(女性・30代)

【高齢者福祉】

- ・ 高齢者が自立して生活できるような仕組みづくり、見守り、交通インフラなど。
(女性・40代)

【障がい者福祉】

- ・ 障がい者への支援や福祉関係の充実。特に災害時。(男性・60代)

【健康づくり】

- ・ 健康づくりの取り組みは県、市をあげて、また地域の病院と行政がもっと連携して行ってほしい。新潟の減塩施策例など、地域で本気になれば出来ることはまだまだ沢山あるはずと思います。(女性・40代)

【医療】

- ・ 大きな病院も小さな病院も市内に多い印象で、医療系の充実は高いと思う。今後この状態がいいと思う。(男性・40代)

【男女共同参画】

- ・ 何が男女共同だか分かりません。ただ言葉だけで何が変わってきているのでしょうか。仕事も男女平等といいながら結局は男性にかかる比重は大きい。残業など今でも男性に頼む割合が多すぎる。(男性・30代)

【分野V】暮らしやすいまちの未来

【環境活動】

- ・ 環境は企業が頑張ってますよね。行政は何をしているのか分からない。もっと寄りそった協力をしてほしい。(男性・40代)

【3R（資源の有効利用）】

- ・ ずっと郡山市民の婚家でのごみの分別状況を見ると、分別が市からの資料どおりにできていない。浸透していないと思う。(女性・30代)

【エネルギー】

- ・ 省エネルギーの推進や環境にやさしい活動がなされているのか不明。
(男性・50代)

【自然環境】

- ・ どんどん住宅地となり、のどかな風景は少なくなっています。寂しい限りです。生活しやすい環境ではありますが、自然が失われ、寂しいです。(女性・40代)

【防災】

- ・ 防災、特に水害への河川堤防の整備強化を進めてほしい。決壊がなくなるように。(男性・30代)

【防犯・交通安全・消費者対策】

- ・ 防犯灯や防犯カメラをもっと取りつけてほしい。(女性・70代以上)

【ユニバーサルデザイン】

- ・ ユニバーサルデザインを考慮した建築物があると思えない。特に市役所が障がい者や高齢者に優しい建物と思えない。(女性・40代)

【交通・道路】

- ・ 郡山は中心部にある。道路によってもっともっと利便性が高くなると思う。アイデアと実行力がほしいなと思います。行動が遅いかなと…。郡山が好きです。期待しております。(女性・50代)

【計画的な都市づくり】

- ・ 福島県の中央部にあるのでいろいろな町にでかけ易くて良いです。都市と里山が両立してお散歩したりするのにいい町がたくさんあります。(女性・60代)

【住環境】

- ・ 公園の整備管理はいいと思います。上下水道は、まだまだ途中で集中豪雨の対策不足は心配です。(女性・60代)

【分野Ⅵ】 横断的取組

【除去土壌等の搬出】

- ・ 自宅の除去土壌の搬出は終了しましたが、すべての除染土壌が福島県からなくなることを願うばかりです。(女性・60代)

【健康管理】

- ・ 東日本大震災での放射線による健康管理は順調に進んでいると思います。これからも頑張ってください。私たちも一緒に努力していきます。(女性・40代)

【風評の払しょく】

- ・ 県は風評の払拭を頑張っていると思いますが、郡山市ではどのような活動をしているのか分からない。もっとPRが必要ではと感じます。(男性・30代)

【分野Ⅶ】 基盤的取組

【行政経営】

- ・ 行政がまず何をどうしたいのか？ 1つずつ何をしてきたのか？分かるように。
(男性・60代)

【セーフコミュニティ】

- ・ 特に気になっていたが高齢者ドライバーがとにかく多い。その方々とは限らないが大丈夫か？と思う運転操作が目につく。いつぶつけられるかこちらがヒヤヒヤする。車社会な上、安全運転を促す機会を設けているのか。(女性・20代)

【連携中枢都市圏構想】

- ・ 近隣市町村との連携が取れたことによって得られたメリットについての報道が薄い印象。郡山市を再開発して近隣市町村のリーダーとなる活気のあるまちづくりをしてほしい。(女性・40代)

【SDGs】

- ・ SDGsの名称すらまだまだ知らない人々が多いと思う。(女性・50代)

(付) 調 査 票 様 式

あなたの声をお聞かせください

～ 2020年度郡山市民意見レーダー ～



<ご記入に当たってのお願い>

- この調査は、市内にお住いの満18歳以上の方々の中から、1,500人を無作為に選び、郵送された調査票にお答えいただく方法で実施いたします。
- この調査は無記名式で、回答は統計的に処理いたしますので、ご協力いただいた方を特定することやご迷惑をおかけすることは一切ございません。
ぜひ、率直なご意見や考えをお知らせください。
- この調査は、個人を対象にしていますので、あなた（あて名の方）ご自身の判断でお答えください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。また、ご回答は、「あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください」「あてはまる番号をいくつでも選び○をつけてください」等と質問文に対応したご記入をお願いいたします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いのうえ、切手を貼らずに**5月29日（金）**までに、郵便ポストに投函してください。
調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

また、スマートフォン・パソコンからもご回答いただけます。
右記のQRコード、又は下記の検索等でアクセスのうえご利用ください。

〔アクセス方法〕

ふくしま電子申請

検索

⇒「ふくしま電子申請」を検索



⇒「ふくしま県市町村共同電子申請システム団体選択-福島県ホームページ」
をクリックし「郡山市」を選択 ⇒「2020年度郡山市民意見レーダー」を選択

〔入力方法〕

1. 「かんたん申請・申込システム」の画面に移行します。ひとつの画面入力が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。
 2. 内容確認の画面が出ますので、修正がなければ「送信する」をクリックしてください。
 3. 「受け付け」の画面が出たら終了です。
※入力による回答は、**5月29日（金）**までをお願いします。
- ※ 入力できる時間は**1時間以内**です。入力から1時間過ぎますと送信できなくなりますので、その際は改めてはじめてから入力をお願いします。

- ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

<お問合せ先>郡山市政策開発部広聴広報課

電話：024-924-2061

Email: kocho@city.koriyama.lg.jp

1 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

(1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

1. 住みやすい 2. どちらかといえば住みやすい 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば住みにくい 5. 住みにくい
【「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」とお感じになる理由をご自由にお書きください。】	

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

1. 現在の住所にずっと住み続けたい 2. 市内の別の地域に住みたい 3. どちらともいえない	4. いずれは市外に住みたい 5. 住みたくない
【「いずれは市外に住みたい」または「住みたくない」とお考えになる理由をご自由にお書きください。】	

2 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【I. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)	よ い	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え ば 不 満	不 満	わ か ら な い
1. 地域産業 地域の中小企業の事業承継 ※1 やM&A ※2 をはじめ、産業の新陳代謝や持続的発展など活性化が図られているか <small>※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収</small>	5	4	3	2	1
2. 起業支援 創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1
3. 産業創出・企業誘致 研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー ※3 や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか <small>※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと</small>	5	4	3	2	1
4. 雇用・就労 市内企業の安定的な雇用があり、やりがいを持って就労できる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1
5. 農林業 農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1
6. 特産品ブランド化 食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1
【I. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よ い	どちらかとい えばよい	ど ちらかとい え ば不 満	不 満	わ か ら な い
7. 都市間交流・国際交流・関係人口 ※1 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか ※1 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者	5	4	3	2	1
8. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光のまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
9. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1
10. 観光 観光誘客や観光資源の活用及びコンベンション ※2 の誘致により国内、インバウンド ※3 の観光客等が増加しているか ※2 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等 ※3 入ってくるものという意味から転じて、外国（区域外）から訪れる旅行を指す。 対義語：アウトバウンド	5	4	3	2	1
11. シティプロモーション ※4 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、交流人口増加や移住・定住の促進が図られているか ※4 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法	5	4	3	2	1
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よ い	どちらかとい えばよい	ど ちらかとい え ば不 満	不 満	わ か ら な い
12. 子育て 安心して生み育てる環境が整っているか	5	4	3	2	1
13. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1
14. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1
15. 学校教育 子どもたちの「生きる力」となる思考力、判断力、表現力等を育み、これからの時代に求められる英語やICT ※1 教育などの資質・能力を身につけられる質の高い教育環境が整っているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
16. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【IV. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	よ い	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	不 満	わ か ら な い
17. 市民協働 ※1 市民誰もが、知識や経験、個性に応じ、様々な社会参加ができる機会や場があるか ※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの立場や特性、目的を認め合い、役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと	5	4	3	2	1
18. 地域コミュニティ 町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1
19. 広聴広報 市政に関する情報の公開や市民からの意見・提案の募集、市民参加のイベントなど市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1
20. スポーツ・文化・芸術 多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
21. 生涯学習 生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1
22. 地域福祉 地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1
23. 高齢者福祉 介護予防対策や介護サービスの充実、質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1
24. 障がい者福祉 障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1
25. 健康づくり 生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1
26. 医療 必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1
27. 男女共同参画 家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1
<u>【IV. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。</u>					

【V. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	よ い	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	不 満	わ か ら な い
28. 環境活動 温室効果ガス排出量の削減に向けた普及啓発等、環境負荷が少ないまちづくりへの取り組みが進んでいるか	5	4	3	2	1
29. 3R ※1 (資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取り組みが進んでいるか ※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再使用)」「Recycle (再生利用)」の頭文字をとった言葉	5	4	3	2	1
30. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー ※2 の普及に向けた取り組みが進んでいるか ※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短時間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1
31. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか	5	4	3	2	1
32. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができていますか	5	4	3	2	1
33. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができていますか	5	4	3	2	1
34. ユニバーサルデザイン ※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取り組みが進んでいるか ※3 障がいの有無や年齢、国籍、性別などの違いに関わらず、はじめからできるだけ多くの人を使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと	5	4	3	2	1
35. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか	5	4	3	2	1
36. 計画的な都市づくり 「こおりやま広域圏」の玄関口として、中心市街地の活性化や地域特性を生かした魅力的なまちとなっているか	5	4	3	2	1
37. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか	5	4	3	2	1
【V. 暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進)	よ い	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	不 満	わ か ら な い
38. 除去土壌等の搬出 除染により生じた除去土壌等の搬出が進んでいるか	5	4	3	2	1
39. 健康管理 内部被ばく検査や自家消費野菜等の放射能検査、心や体のケアに関する健康相談体制の充実等、健康管理が図られているか	5	4	3	2	1
40. 風評の払しょく 郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等により、風評の払しょくが図られているか	5	4	3	2	1
【横断的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	よ い	ど ち ら か と い え	ど ち ら か と い え	不 満	わ か ら な い
41. 行政経営 ICT ※1 の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1
42. セーフコミュニティ ※2 安全・安心なまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動を推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、地域住民や団体、行政等による連携・協働により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと	5	4	3	2	1
43. 連携中枢都市圏構想 ※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想	5	4	3	2	1
44. SDGs ※4 2015年に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な「持続可能な開発目標」であるSDGsの取り組みが進んでいるか ※4 SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の頭文字を集めた言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。	5	4	3	2	1
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。					

3 郡山市のこれからの取組について

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を1～44から5つ選び、その番号に○印をつけてください。

<p>【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域産業2. 起業支援3. 産業創出・企業誘致4. 雇用・就労5. 農林業6. 特産品ブランド化 <p>【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)</p> <ol style="list-style-type: none">7. 都市間交流・国際交流・関係人口8. 歴史・文化遺産9. 音楽のまちづくり10. 観光11. シティプロモーション <p>【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)</p> <ol style="list-style-type: none">12. 子育て13. 乳幼児教育・家庭教育14. 青少年健全育成15. 学校教育16. 地域学習 <p>【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)</p> <ol style="list-style-type: none">17. 市民協働18. 地域コミュニティ19. 広聴広報20. スポーツ・文化・芸術21. 生涯学習22. 地域福祉23. 高齢者福祉24. 障がい者福祉25. 健康づくり26. 医療27. 男女共同参画	<p>【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)</p> <ol style="list-style-type: none">28. 環境活動29. 3R(資源の有効利用)30. エネルギー31. 自然環境32. 防災33. 防犯・交通安全・消費者対策34. ユニバーサルデザイン35. 交通・道路36. 計画的な都市づくり37. 住環境 <p>【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進)</p> <ol style="list-style-type: none">38. 除去土壌等の搬出39. 健康管理40. 風評の払しょく <p>【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)</p> <ol style="list-style-type: none">41. 行政経営42. セーフコミュニティ43. 連携中枢都市圏構想44. SDGs
---	--

4 令和元年東日本台風について

近年発生している自然災害は、気候変動に起因した大規模なものとなる傾向があり、昨年10月に発生した『令和元年東日本台風』においても、これまでの想定をはるかに超える甚大な被害を本市も受けました。

現在、これら被害からの速やかな復旧・復興など、災害対応に全力を尽くしていますが、今後のさらなる防災力の向上に向け、以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

- (1) 今後発生する自然災害についてどのように感じていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. かなり不安である
2. 多少の不安を感じている
3. あまり不安は感じていない
4. 不安ではない

- (2) 警戒レベル ※1 を用いた情報発信をご存知ですか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

※1 国の『避難勧告等に関するガイドライン』の改定（平成31年3月改定）により、市町村が発令する避難勧告等については、住民がとるべき避難行動を示す『警戒レベル』を用いた情報発信を実施しています。

- 警戒レベル3：避難準備・高齢者等避難開始（⇒高齢者等は避難を開始）
- 警戒レベル4：避難勧告、避難指示（緊急）（⇒全員避難を開始）
- 警戒レベル5：災害発生情報（⇒命を守る最善の行動を）

1. 言葉の意味を知っており、警戒レベルごと取るべき避難行動の意味も理解している
2. 言葉は知っていたが、警戒レベルごと取るべき避難行動の意味までは理解していない
3. 言葉を全く知らなかった。聞いたことがない

- (3) もし、あなたの身近で災害が発生した際に、どのような方や組織等からの協力が最も有効的だと思いますか？
最も有効的だと思う番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. 家族	8. 消防団
2. 同居以外の家族や親せき	9. 民生委員
3. 隣近所の人	10. 町内会・自主防災組織
4. 職場の人	11. 行政（市職員など）
5. 自衛隊	12. 医療福祉関係者
6. 警察	13. その他
7. 消防	()

- (4) 災害への備えとしては、日頃から「自らの命を自らが守る」といった自身での準備や防災意識を持つことが大切です。
例えば、くもしもの時はどこに避難する？ 避難場所まで行ける？>等を確認するために、家族で休日にピクニック気分を楽しみながら行う『防災さんぽ』等の取り組みもあります。
あなたは、「自らの命を自らが守る」ためにはどのようなことが重要だと思いますか？ご意見やご提案等がありましたら、ご自由にお書きください。

--

5 新型コロナウイルス感染症について

郡山市ではこれまで、感染症に関する相談対応や市ウェブサイトでの情報提供などを行ってまいりました。現在も市民の皆さまに、よりの確に情報提供ができるよう、分かりやすい情報提供に努めているところです。

今後も、状況が変化していくことが予想されますが、3つの条件が同時に重なる場所を避けること、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策の徹底など、分かりやすい情報提供を進めてまいります。

以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

- (1) 新型コロナウイルス感染症についてどのように感じていますか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

1. かなり不安である
2. どちらかといえば不安である
3. あまり不安ではない
4. まったく不安はない

- (2) 新型コロナウイルスに関する情報をどのような方法で取得していますか？
特に情報を取得する際に利用しているものの番号を1～11から3つ選び、○印をつけてください。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市ウェブサイト
6. 広報こおりやま
7. ソーシャルメディア (Facebook、LINE、Twitter など)
8. インターネット
9. 家族・知人
10. 入手していない
11. その他 ()

- (3) あなたは、どのような新型コロナウイルスの感染症対策を行っていますか？
あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

1. 手洗いやアルコール消毒	7. 不要不急の外出は控える
2. 咳エチケット ※1 ・マスクの着用	8. 3密を避ける行動 ※2
3. うがい	9. しっかりと睡眠をとる
4. 定期的な体温の測定	10. テレワークを実施している
5. 屋内の換気	11. その他
6. よく触れるものの消毒や洗浄	()

※1 他人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえること

※2 「換気の悪い密室空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話や発声をする密接場面」を避けること

- (4) 新型コロナウイルス感染症について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。

--

6 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別 (あてはまる番号1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(2) 年齢 (あてはまる番号1つに○)

1. 18歳～19歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	6. 60歳～69歳
3. 30歳～39歳	7. 70歳以上
4. 40歳～49歳	

(3) 職業 (あてはまる番号1つに○)

1. 農業	5. 主婦・主夫
2. 給与所得者	6. 学生
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイトなど	8. その他

(4) 郡山市での居住年数 (あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	4. 10～19年
2. 3年未満	5. 20～29年
3. 3～9年	6. 30年以上

(5) 居住形態 (あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家	4. 社宅、公舎など
2. 民間の借家・アパート	5. 間借、同居、寮など
3. 公営住宅	

(6) 現住所の直前に住んでいたところ (あてはまる番号1つに○)

1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	4. 東京圏 ※1
2. 郡山市内の別の地域	5. その他 ※2 ()
3. 郡山市外で福島県内	

※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 ※2 福島県、東京圏以外の居住地

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きします。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか? (あてはまる番号全てに○)

1. 生まれ育った場所だから	11. 病院・医院が近くにあるから
2. 自分や家族の持ち家だから	12. 住まいの周辺が静かだから
3. 寮や社宅に住むから	13. 自然環境が身近にあるから
4. 親や子、親族、友人などがいるから	14. まちなみや景観がよいから
5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから	15. 賑わいや活気があるから
6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから	16. 犯罪が少ないと感じているから
7. 日ごろの買い物などが便利だから	17. 街のイメージがよいから
8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから	18. 郡山が好きだから
9. 学校などの教育環境がよいから	19. 市民の気質や感性が自分と合うから
10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから	20. その他 ()

(8) お住まいの地域 (あてはまる番号1つに○)

1. 旧郡山東部 (芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など)
2. 旧郡山西部 (駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外)
3. 富田
4. 大槻
5. 安積
6. 三穂田
7. 逢瀬
8. 片平
9. 喜久田
10. 日和田
11. 富久山
12. 湖南
13. 熱海
14. 田村
15. 西田
16. 中田

◆市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。◆

以上で、質問は終わりです。皆様方からいただきました貴重なご回答・ご意見等は、郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただき感謝申し上げます。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)をお使いのうえ、切手を貼らずに5月29日(金)までに、郵便ポストに投函してください。

調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2020 年度 市民意見レーダー
調査結果報告書

令和 2 年 9 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail:kocho@city.koriyama.lg.jp